

男女共同参画社会づくりに向けての意識調査

アンケート結果

平成 21 年 3 月

茂 原 市

はじめに

男女が社会の対等な構成員として、互いにその人権を尊重し、性別に関わりなくその個性と能力を十分に発揮できる「男女共同参画社会」の実現は、我が国社会にとって重要な課題の一つです。

21 世紀を迎え、少子高齢化・高度情報化・国際化など社会環境が大きく変動する中で、家庭や職場、地域社会など日々の暮らしの中における私たちの生き方や考え方は、非常に多様化しています。

茂原市では平成 16 年 3 月に「茂原市男女共同参画計画」を策定し、さまざまな施策を展開してまいりました。この計画は平成 16 年度から平成 22 年度までの 7 年間の計画期間としており、社会情勢やニーズの変化に応じて見直しを行うこととされています。

計画策定から 5 年が経過し、男女共同参画社会づくりに関する市民の皆さんの意識の変化をとらえ、市民生活を送る上で直面している新たな問題に対処するため、市では「茂原市男女共同参画計画」の見直しを進めています。

このたび計画の見直しにあたり、市民の皆さんの男女共同参画社会づくりに関するご意見を伺い、市が今後取り組むべき施策の基礎資料とするため、「茂原市男女共同参画社会づくりに向けての意識調査」を実施し、結果を取りまとめました。

このアンケート結果が関係機関や市民の皆さまに広くご活用いただければ幸いです。調査にご協力をいただきました市民の皆さまに心からお礼申し上げます。

平成 21 年 3 月

茂原市企画財政部企画政策課

目 次

1	調査の概要.....	1
1.1	調査の目的	1
1.2	調査の内容	1
1.3	調査方法.....	1
1.4	回収結果.....	1
1.5	集計・分析について.....	1
1.6	標本比率の標準誤差.....	2
2	調査回答者の属性.....	3
2.1	性別.....	3
2.2	年齢.....	3
2.3	居住地区.....	3
2.4	職業.....	4
2.5	世帯構成.....	4
2.6	婚姻.....	4
2.7	共働きの状況.....	5
3	調査結果.....	6
3.1	男女平等意識について.....	6
3.2	言葉の理解度.....	7
3.3	性別役割分担意識.....	9
3.4	家庭における役割分担.....	10
3.5	理想の子どもの将来像.....	14
3.6	学校教育における男女平等意識	15
3.7	出生率の低い原因.....	16
3.8	主な介護者	17
3.9	介護における女性の役割.....	18

3.10	要介護状態になった場合の介護主体	19
3.11	望ましい女性の働き方	20
3.12	女性が仕事を続ける上での障害	21
3.13	女性が働きやすい環境	22
3.14	セクシュアル・ハラスメントの現状	23
3.15	セクシュアル・ハラスメントの相談窓口	24
3.16	セクシュアル・ハラスメントの原因	25
3.17	ドメスティック・バイオレンスの現状	26
3.18	DV防止法とドメスティック・バイオレンスについての意識	29
3.19	行政に望む女性に対する暴力への対応	30
3.20	地域活動への参加状況	31
3.21	男性の地域活動・家庭生活への参加促進	32
3.22	女性リーダーが少ない理由	33
3.23	女性の政治参画による社会変化への期待	34
3.24	審議会への女性委員の登用状況	35
3.25	男女共同参画社会の実現に向けて必要なこと	36
3.26	男女共同参画社会の実現に向けた市への要望	37
3.27	男女共同参画社会づくりに関する意見・要望	39
4	参考資料（調査票）	51
5	用語解説	66

1 調査の概要

1.1 調査の目的

この調査は、市民の男女共同参画社会づくりに関する意識・意向や生活実態などを総合的に把握し、次期男女共同参画計画の策定や各種施策の推進に反映させるための基礎資料を得ることを目的として実施された。

1.2 調査の内容

- ① 男女平等意識について
- ② 男女の役割分担について
- ③ 子育てと教育について
- ④ 高齢化社会について
- ⑤ 労働について
- ⑥ セクシュアル・ハラスメントについて
- ⑦ ドメスティック・バイオレンス（DV）について
- ⑧ 社会・地域参加について
- ⑨ 市への要望について

1.3 調査方法

- | | |
|--------|---------------------------|
| ① 調査地域 | 茂原市全域 |
| ② 調査対象 | 市内に居住している 20 歳以上の男女 |
| ③ 対象者数 | 3,000 人 |
| ④ 抽出方法 | 住民基本台帳より無作為抽出 |
| ⑤ 調査方法 | 郵送配付・郵送回収 |
| ⑥ 調査期間 | 平成 20 年 8 月 18 日～8 月 31 日 |

1.4 回収結果

- | | |
|-------|---------|
| ① 配付数 | 3,000 件 |
| ② 回収数 | 1,189 件 |
| ③ 回収率 | 39.6% |

1.5 集計・分析について

- 調査結果の数値は、原則として回答率(%)を表記しています。
- 回答率は小数点第 2 位を四捨五入し、小数点以下第 1 位までを表記している関係で、合計が 100%とならない場合があります。
- 回答率(%)はその質問の回答者数を基数として算出したため、複数回答の設問はすべての比率を合計すると 100%を超えることがあります。
- 基数となるべき実数は[n]として掲載してあります。

1.6 標本比率の標準誤差

信頼度を 95%とした場合の母比率 P は次式で得られる。

$$p - 1.96 \sqrt{\frac{N - n}{N - 1} \times \frac{p(1 - p)}{n}} < P < p + 1.96 \sqrt{\frac{N - n}{N - 1} \times \frac{p(1 - p)}{n}}$$

N : 母集団の大きさ (茂原市 20 歳以上人口) 69,419

n : 標本の大きさ (回答者数)

p : 標本比率(%)

今回の調査結果における標本誤差は下表のようになる。

n \ p	90%または 10%程度	80%または 20%程度	70%または 30%程度	60%または 40%程度	50%程度
1,189	±1.69	±2.26	±2.58	±2.76	±2.82
1,000	±1.85	±2.46	±2.82	±3.01	±3.08
700	±2.21	±2.95	±3.38	±3.61	±3.69
400	±2.93	±3.91	±4.48	±4.79	±4.89
100	±5.88	±7.83	±8.98	±9.60	±9.79

※この表の見方

例えば、ある設問の回答数 n が 1,189 であり、その設問中の選択肢の回答率 p (標本比率) が 70%であった場合、茂原市全体の回答率 P (母比率) は 95%の確率で 67.42%~72.58% (±2.58 以内) に含まれる。

2 調査回答者の属性

2.1 性別

	回答数	構成比(%)
女性	672	56.5
男性	495	41.6
無回答	22	1.9
合計	1,189	100.0

2.2 年齢

	回答数	構成比(%)
20歳代	112	9.4
30歳代	175	14.7
40歳代	171	14.4
50歳代	272	22.9
60歳代	304	25.6
70歳以上	134	11.3
無回答	21	1.7
合計	1,189	100.0

2.3 居住地区

	回答数	構成比(%)
茂原地区 (既成市街地)	239	20.1
茂原地区 (その他)	144	12.1
東郷地区	182	15.3
豊田地区	99	8.3
二宮地区	44	3.7
鶴枝地区	111	9.3
五郷地区	136	11.4
本納地区	86	7.2
新治地区	19	1.6
豊岡地区	62	5.2
緑ヶ丘	41	3.4
無回答	26	2.2
合計	1,189	100.0

2.4 職業

	回答数	構成比(%)
農林漁業	20	1.7
商工・サービス	36	3.0
医師・弁護士など	4	0.3
その他自営業	59	5.0
会社員	306	25.7
公務員・団体職員	80	6.7
専業主婦・主夫	200	16.8
学生	21	1.8
無職	229	19.3
パート・アルバイトなど臨時的な仕事	187	15.7
その他	24	2.0
無回答	23	1.9
合計	1,189	100.0

2.5 世帯構成

	回答数	構成比(%)
ひとり暮らし	74	6.2
夫婦のみ（一世代家族）	332	27.9
親と未婚の子ども（核家族）	471	39.6
親と子ども夫婦（二世世代家族）	102	8.6
親と子ども夫婦と孫（三世世代家族）	145	12.2
その他	33	2.8
無回答	32	2.7
合計	1,189	100.0

2.6 婚姻

	回答数	構成比(%)
既婚	880	74.0
死別・離別	111	9.3
未婚	171	14.4
無回答	27	2.3
合計	1,189	100.0

2.7 共働きの状況

	回答数	構成比(%)
共働き	384	43.6
夫だけ	252	28.6
妻だけ	39	4.4
ともに無職	203	23.1
無回答	2	0.2
合計	880	100.0

3 調査結果

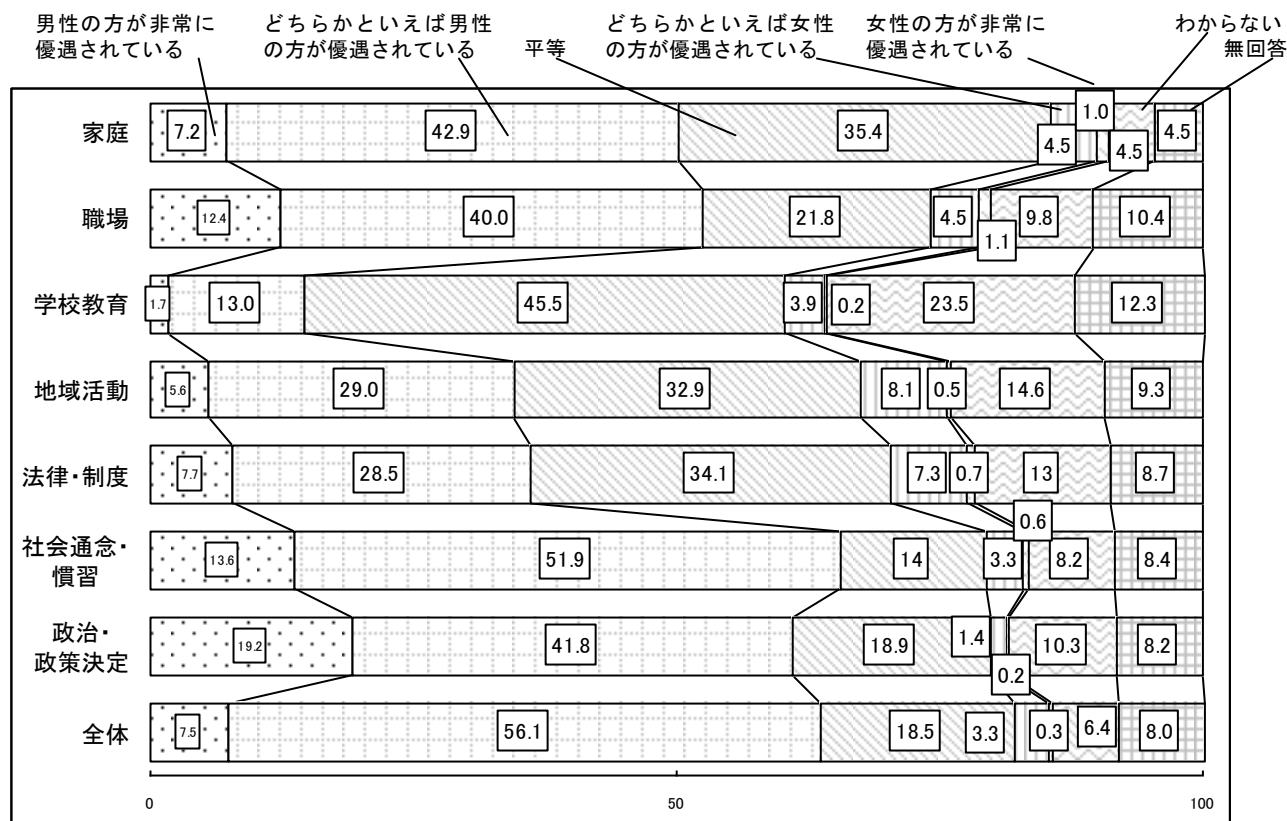
3.1 男女平等意識について

問 1.現在、次のような面で男女の地位が平等になっていると思いますか。それともそう思いませんか。(○はそれぞれ1つずつ)

[n=1,189]

表中の数値は回答率(%)

	男性の方が非常に 優遇されている	どちらかといえば男性の 方が優遇されている	平等	どちらかといえば女性の 方が優遇されている	女性の方が非常に 優遇されている	わからない	無回答
(ア) 家庭の中で	7.2	42.9	35.4	4.5	1.0	4.5	4.5
(イ) 職場の中で	12.4	40.0	21.8	4.5	1.1	9.8	10.4
(ウ) 学校教育の場で	1.7	13.0	45.5	3.9	0.2	23.5	12.3
(エ) 地域活動の場で	5.6	29.0	32.9	8.1	0.5	14.6	9.3
(オ) 法律や制度の上で	7.7	28.5	34.1	7.3	0.7	13.0	8.7
(カ) 社会通念・慣習で	13.6	51.9	14.0	3.3	0.6	8.2	8.4
(キ) 政治や政策決定の場で	19.2	41.8	18.9	1.4	0.2	10.3	8.2
(ク) 全体として	7.5	56.1	18.5	3.3	0.3	6.4	8.0



3.2 言葉の理解度

問2. 次の言葉を知っていますか。(○はそれぞれ1つずつ)

[n=1,189]

表中の数値は回答率(%)

	よく知っている	聞いたことはある	知らない	無回答
(ア) 男女雇用機会均等法	49.4	39.6	7.3	3.7
(イ) 男女共同参画社会基本法	15.5	38.6	41.8	4.1
(ウ) 女子差別撤廃条約	12.3	39.3	44.5	4.0
(エ) ジェンダー (社会的・文化的につくられた性別)	11.6	20.9	63.1	4.4
(オ) リプロダクティブ・ヘルス/ライツ (性と生殖に関する健康と権利)	4.0	12.1	79.2	4.7
(カ) セクハラ (セクシュアル・ハラスメント)	81.4	13.2	1.3	4.0
(キ) DV (ドメスティック・バイオレンス)	72.3	16.1	7.8	3.8
(ク) エンパワーメント (力をつけること)	9.5	26.9	58.5	5.0
(ケ) ポジティブ・アクション (積極的改善措置)	13.4	33.1	48.5	5.0
(コ) アンペイド・ワーク (家事・育児・介護・看護等の無償労働)	7.7	21.9	65.1	5.4
(サ) 女性専用車両	69.0	20.9	6.6	3.6
(シ) ワーク・ライフ・バランス (仕事と生活の調和)	14.9	38.3	42.6	4.3
(ス) 特定事業主行動計画	3.0	17.3	75.2	4.5
(セ) ダイバーシティ (多様性)	4.0	17.4	74.1	4.5
(ソ) 家族経営協定	2.0	13.2	80.1	4.7
(タ) デート DV	12.6	21.7	61.6	4.1

※これらの用語の解説については 66 ページ以降に掲載しています。

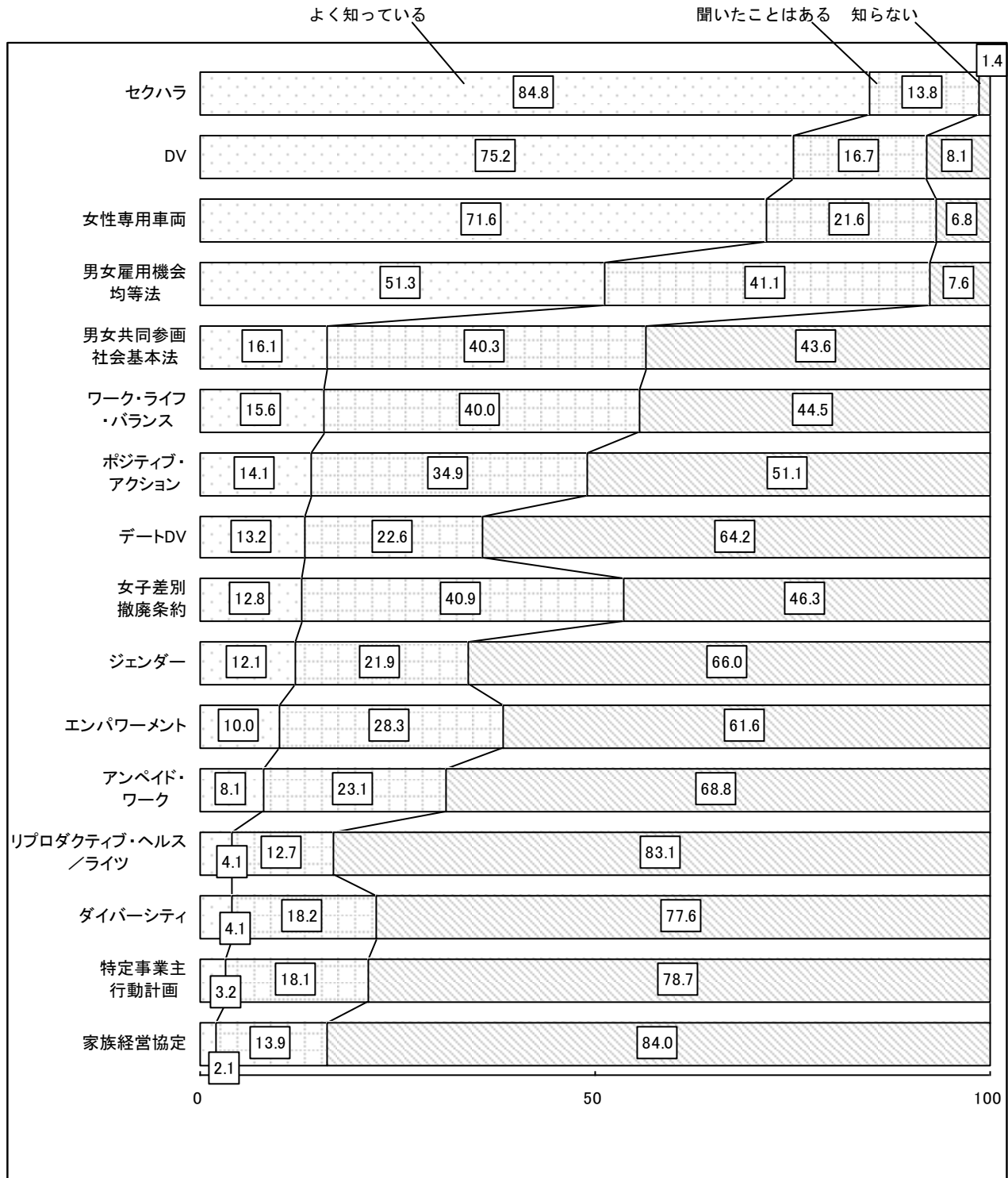
「よく知っている」上位 5 件

- ①セクハラ 84.8%
- ②DV 75.2%
- ③女性専用車両 71.6%
- ④男女雇用機会均等法 51.3%
- ⑤男女共同参画社会基本法 16.1%

「知らない」上位 5 件

- ①家族経営協定 84.0%
- ②リプロダクティブ・ヘルス/ライツ 83.1%
- ③特定事業主行動計画 78.7%
- ④ダイバーシティ 77.6%
- ⑤アンペイド・ワーク 68.8%

※回答率は「無回答」を除いて再計算したものの



3.4 家庭における役割分担

問 4. あなたの家では、次に挙げる仕事等は、どなたの役割になっていますか。

(○はそれぞれ1つずつ)

[n=1,189]

表中の数値は回答率(%)

	主に夫	主に妻	夫婦同程度	その他の人(男性)	その他の人(女性)	該当しない	無回答
(ア) 食事の支度	1.3	66.9	3.4	0.1	2.5	0.3	25.6
(イ) 食事の後片付け、食器洗い	3.7	58.9	9.0	0.2	2.3	0.3	25.7
(ウ) 日常の買い物	1.9	54.8	15.3	0.2	1.8	0.4	25.7
(エ) 掃除	3.1	58.1	11.5	0.1	1.3	0.2	25.7
(オ) 洗濯	1.8	64.2	6.2	0.1	1.9	0.2	25.7
(カ) ごみ出し	21.2	35.4	13.8	1.8	1.9	0.2	25.7
(キ) 大工仕事や電気製品の管理	54.4	4.8	10.2	3.4	0.2	0.9	26.2
(ク) 役所や銀行などへの用事	16.7	38.9	17.2	0.4	0.6	0.2	25.9
(ケ) 高齢者や病人の世話	1.0	28.2	9.7	0.2	0.7	28.8	31.5
(コ) 町内会や自治会の出席	36.1	14.0	11.8	2.3	1.1	8.1	26.7
(サ) 子どもの勉強やしつけ	1.3	29.1	19.9	0.3	0.4	18.8	30.2
(シ) 学校行事への参加	1.7	35.8	8.8	0.1	0.4	22.8	30.4
(ス) 家計の管理	8.2	51.0	12.9	0.3	0.8	0.7	26.2
(セ) 財産・資産の管理	27.2	26.2	17.3	1.2	0.4	1.8	25.9
(ソ) 家庭内での主導権	29.8	14.0	27.8	1.1	0.5	0.9	26.0

「主に夫」上位 5 件

①大工仕事や電気製品の管理	74.6%
②町内会や自治会への出席	55.3%
③家庭内での主導権	40.7%
④財産・資産の管理	37.6%
⑤ごみ出し	28.6%

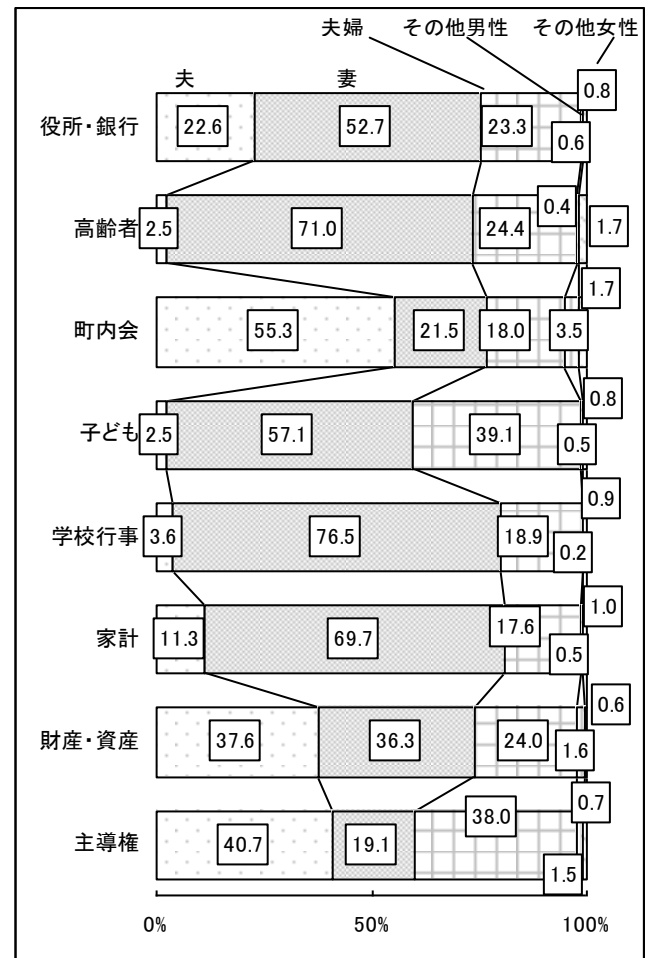
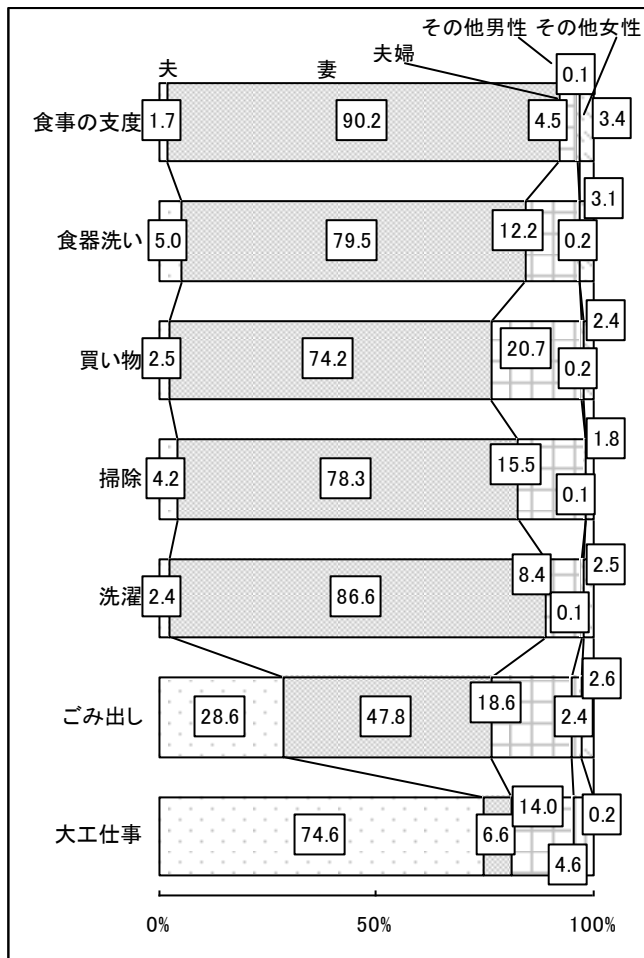
「主に妻」上位 5 件

①食事の支度	90.2%
②洗濯	86.6%
③食器洗い	79.5%
④掃除	78.3%
⑤学校行事への参加	76.5%

(回答率は「該当しない」「無回答」を除いて構成比を再計算したもの)

※回答率は「該当しない」「無回答」を除いて構成比を再計算したもの。表中の数値は回答率(%)

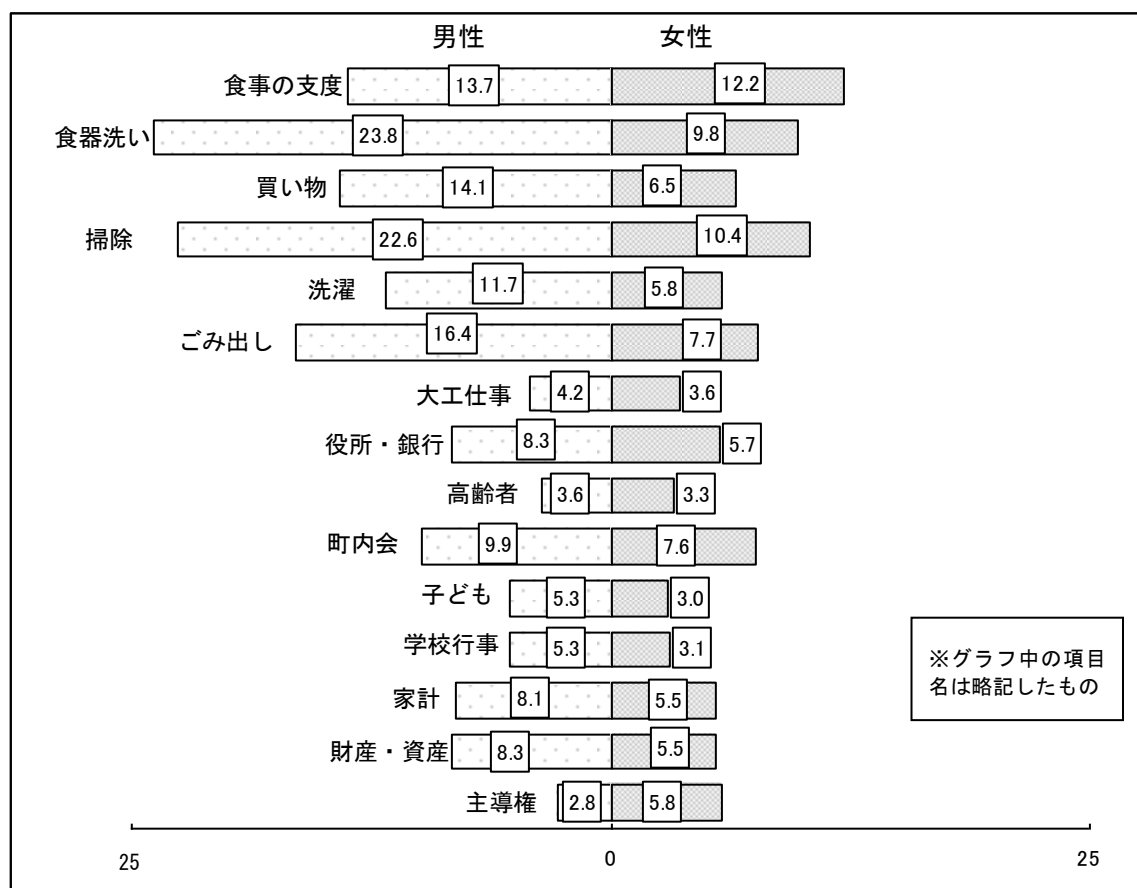
	夫	妻	夫婦	その他男性	その他女性
(ア) 食事の支度	1.7	90.2	4.5	0.1	3.4
(イ) 食事の後片付け、食器洗い	5.0	79.5	12.2	0.2	3.1
(ウ) 日常の買い物	2.5	74.2	20.7	0.2	2.4
(エ) 掃除	4.2	78.3	15.5	0.1	1.8
(オ) 洗濯	2.4	86.6	8.4	0.1	2.5
(カ) ごみ出し	28.6	47.8	18.6	2.4	2.6
(キ) 大工仕事や電気製品の管理	74.6	6.6	14.0	4.6	0.2
(ク) 役所や銀行などへの用事	22.6	52.7	23.3	0.6	0.8
(ケ) 高齢者や病人の世話	2.5	71.0	24.4	0.4	1.7
(コ) 町内会や自治会の出席	55.3	21.5	18.0	3.5	1.7
(サ) 子どもの勉強やしつけ	2.5	57.1	39.1	0.5	0.8
(シ) 学校行事への参加	3.6	76.5	18.9	0.2	0.9
(ス) 家計の管理	11.3	69.7	17.6	0.5	1.0
(セ) 財産・資産の管理	37.6	36.3	24.0	1.6	0.6
(ソ) 家庭内での主導権	40.7	19.1	38.0	1.5	0.7



※グラフ中の項目名は略記したもの

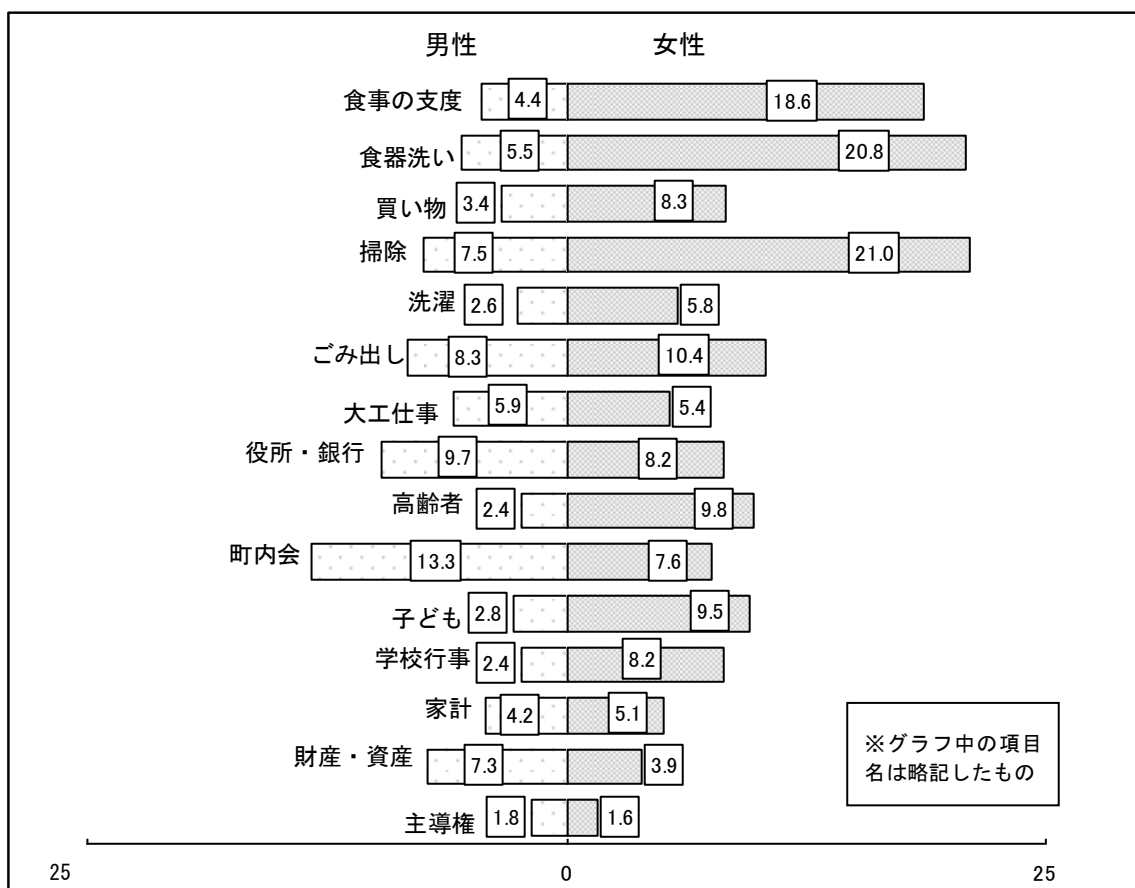
問 4-1.問 4.の (ア) ~ (ソ) までの仕事のうち自分が「もっと分担してもよい」と思うものを3つ選んでください。

表中の数値は回答率(%)	男性 [n=495]	女性 [n=672]	
(ア) 食事の支度	13.7	12.2	上位 5 件 (男性) ①食事の後片付け、食器洗い 23.8%
(イ) 食事の後片付け、食器洗い	23.8	9.8	②掃除 22.6%
(ウ) 日常の買い物	14.1	6.5	③ごみ出し 16.4%
(エ) 掃除	22.6	10.4	④日常の買い物 14.1%
(オ) 洗濯	11.7	5.8	⑤食事の支度 13.7%
(カ) ごみ出し	16.4	7.7	
(キ) 大工仕事や電気製品の管理	4.2	3.6	上位 5 件 (女性)
(ク) 役所や銀行などへの用事	8.3	5.7	①食事の支度 12.2%
(ケ) 高齢者や病人の世話	3.6	3.3	②掃除 10.4%
(コ) 町内会や自治会の出席	9.9	7.6	③食事の後片付け、食器洗い 9.8%
(サ) 子どもの勉強やしつけ	5.3	3.0	④ごみ出し 7.7%
(シ) 学校行事への参加	5.3	3.1	⑤町内会や自治会の出席 7.6%
(ス) 家計の管理	8.1	5.5	
(セ) 財産・資産の管理	8.3	5.5	
(ソ) 家庭内での主導権	2.8	5.8	



問 4-2.問 4.の (ア) ~ (ソ) までの仕事のうち配偶者・パートナーに「もっと分担してもらいたい」と思うものを3つ選んでください。

表中の数値は回答率(%)	男性 [n=495]	女性 [n=672]		
(ア) 食事の支度	4.4	18.6	上位 5 件 (男性)	①町内会や自治会の出席 13.3%
(イ) 食事の後片付け、食器洗い	5.5	20.8		②役所や銀行などへの用事 9.7%
(ウ) 日常の買い物	3.4	8.3		③ごみ出し 8.3%
(エ) 掃除	7.5	21.0		④掃除 7.5%
(オ) 洗濯	2.6	5.8		⑤財産・資産の管理 7.3%
(カ) ごみ出し	8.3	10.4		
(キ) 大工仕事や電気製品の管理	5.9	5.4	上位 5 件 (女性)	
(ク) 役所や銀行などへの用事	9.7	8.2		①掃除 21.0%
(ケ) 高齢者や病人の世話	2.4	9.8		②食事の後片付け、食器洗い 20.8%
(コ) 町内会や自治会の出席	13.3	7.6		③食事の支度 18.6%
(サ) 子どもの勉強やしつけ	2.8	9.5		④ごみ出し 10.4%
(シ) 学校行事への参加	2.4	8.2		⑤高齢者や病人の世話 9.8%
(ス) 家計の管理	4.2	5.1		
(セ) 財産・資産の管理	7.3	3.9		
(ソ) 家庭内での主導権	1.8	1.6		

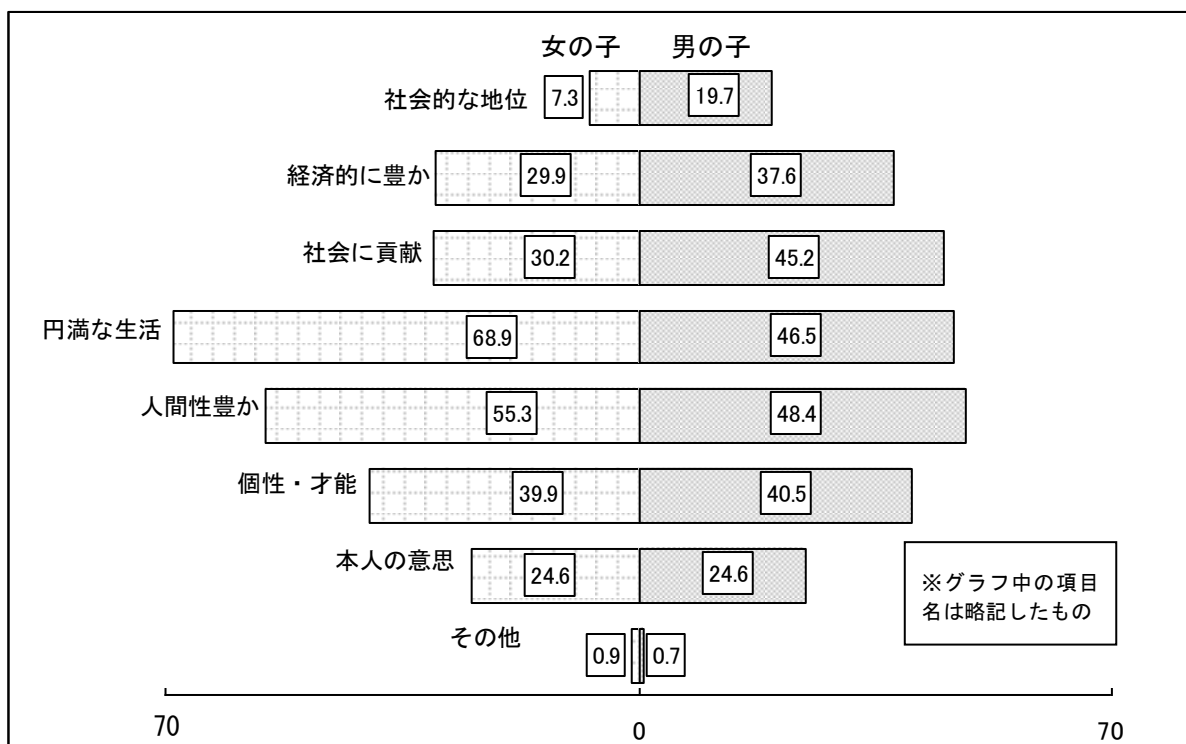


3.5 理想の子どもの将来像

問 5. これからの時代を生きていく子どもたちには、将来どのような生き方をしてほしいと思いますか。(〇は女の子・男の子それぞれ3つまで)

[n=1,189]
表中の数値は回答率(%)

	女の子	男の子
(ア) 社会的な地位を得る	7.3	19.7
(イ) 経済的に豊かな生活をする	29.9	37.6
(ウ) 社会に貢献する	30.2	45.2
(エ) 家庭や周りの人たちと円満に暮らす	68.9	46.5
(オ) 人間性豊かな生活をする	55.3	48.4
(カ) 本人の個性や才能を生かした生活をする	39.9	40.5
(キ) 本人の意思に任せる	24.6	24.6
(ク) その他	0.9	0.7



「女の子」上位3件

- ① 家庭や周りの人たちと円満に暮らす 68.9%
- ② 人間性豊かな生活をする 55.3%
- ③ 本人の個性や才能を生かした生活をする 40.7%

「男の子」上位3件

- ① 人間性豊かな生活をする 48.4%
- ② 家庭や周りの人たちと円満に暮らす 46.5%
- ③ 社会に貢献する 45.2%

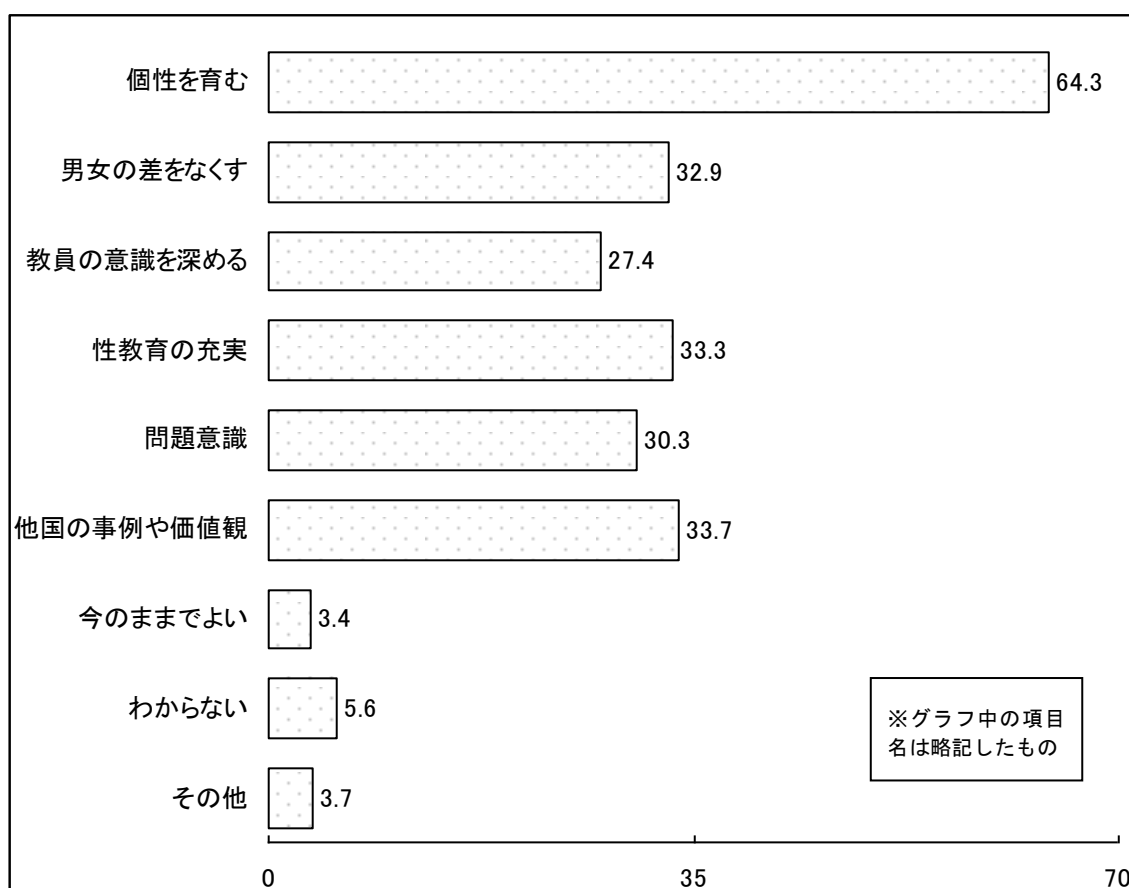
3.6 学校教育における男女平等意識

問 6. 学校教育の中で男女平等の意識を深めるためには、何が大切だと思いますか。(〇は3つまで)

[n=1,189]

表中の数値は回答率(%)

1.男女平等の観点に立って、性別にとらわれず、一人ひとりの個性を育むような授業をする	64.3
2.生活指導や進路指導において、男女の差をなくす配慮をする	32.9
3.男女共同参画に関する教員の意識を深める研修を行う	27.4
4.相手へのいたわりや理解が増すような性教育を充実させる	33.3
5.性差別や人種差別などに問題意識をもたせる	30.3
6.国際交流や交換留学を活発にし、他国の事例や価値観を学ばせる	33.7
7.今のままでよい	3.4
8.わからない	5.6
9.その他	3.7



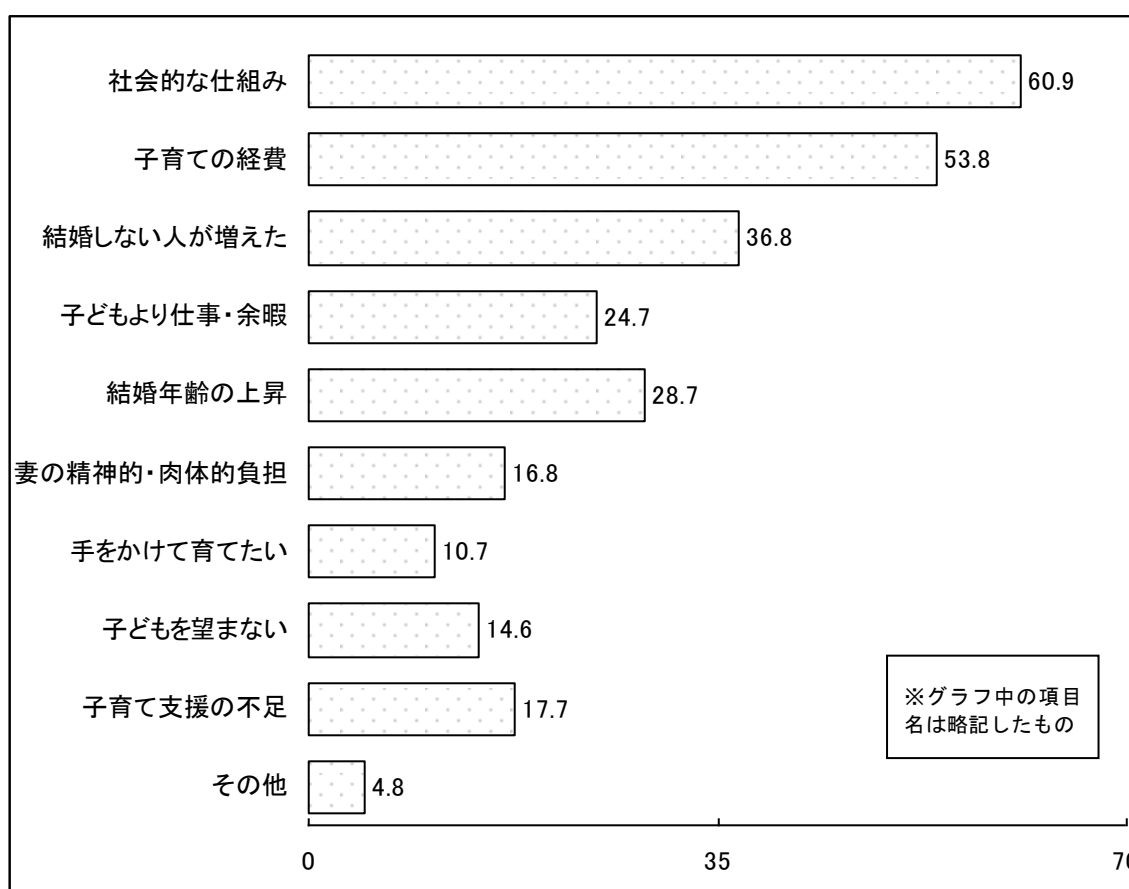
3.7 出生率の低い原因

問 7.女性が一生の間に産む子どもの数は 2007 年で 1.34 人となっています。あなたは、出生率が低い原因は何だと思いませんか。(〇は3つまで)

[n=1,189]

表中の数値は回答率(%)

1.子育てと仕事を両立させる社会的な仕組みが整っていない	60.9
2.住宅事情や家計が厳しく、子育てに経費がかかりすぎる	53.8
3.結婚しない人が増えた	36.8
4.子どもよりも仕事や余暇等を充実したいと考える人が増えた	24.7
5.女性の高学歴化や社会進出により結婚年齢が上昇した	28.7
6.出産・子育てに対する夫の理解・協力が足りず妻の精神的・肉体的負担が大きい	16.8
7.子どもは少なく産んで十分手をかけて育てたいという人が増えた	10.7
8.楽をしたい・子育てが面倒で子どもを望まないという人が増えた	14.6
9.祖父母や隣近所など、両親以外に子育てを支援してくれる人がいない	17.7
10.その他	4.8



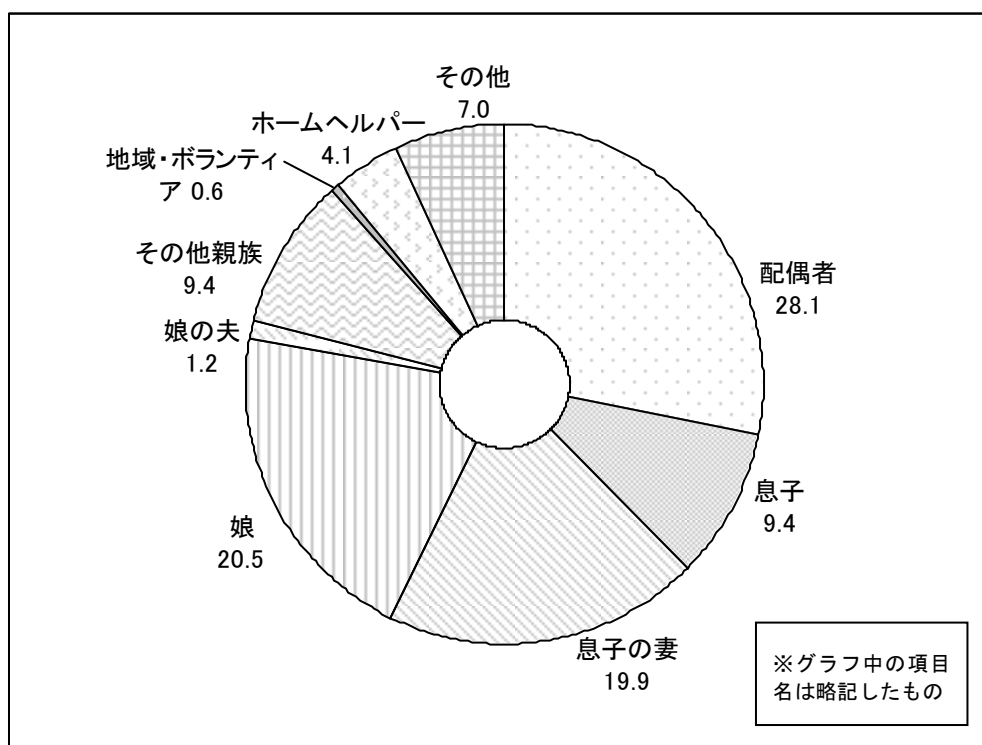
3.8 主な介護者

問 8. 主に介護しているのは、要介護者から見てどの関係に当たる方ですか (○は1つだけ)

[n=171]

表中の数値は回答率(%)

1.配偶者	28.1
2.息子	9.4
3.息子の妻	19.9
4.娘	20.5
5.娘の夫	1.2
6.その他の親族	9.4
7.地域の人・ボランティア	0.6
8.ホームヘルパー・家政婦	4.1
9.その他	7.0



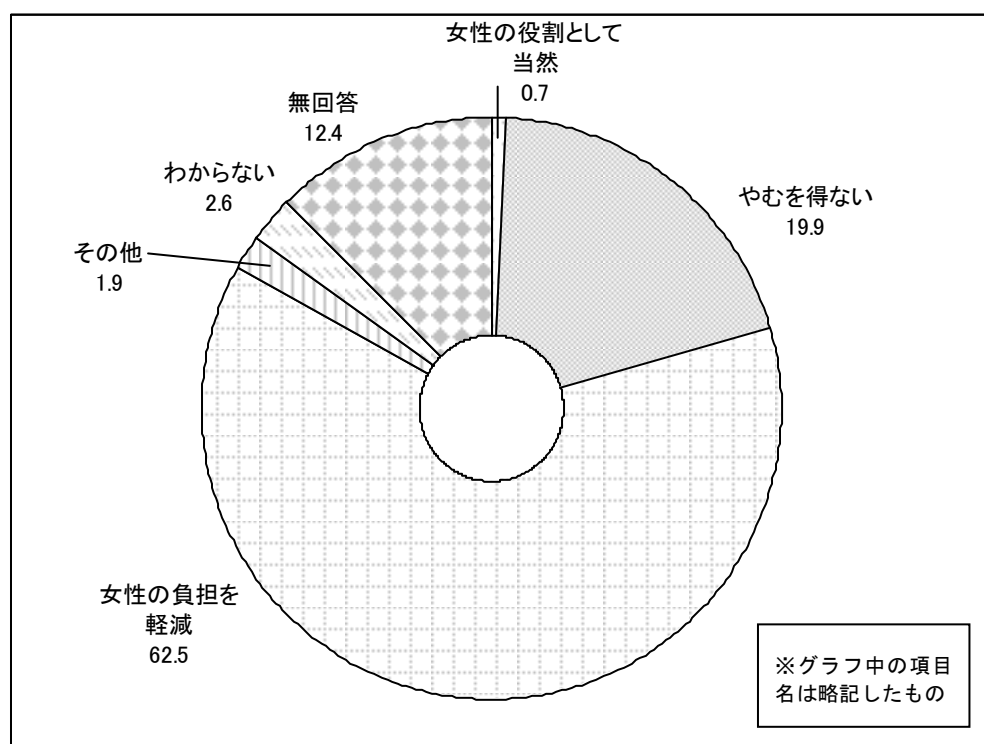
3.9 介護における女性の役割

問 9. 家庭で寝たきりになったお年寄りなどの介護は、女性（妻・嫁・娘など）が主たる担い手となることが多いですが、このことについてどう思いますか。（○は1つだけ）

[n=1,189]

表中の数値は回答率(%)

1.女性の役割として当然だと思う	0.7
2.問題があるが、現実にはやむを得ない	19.9
3.介護保険制度・ホームヘルパーを活用するなど、女性の負担を軽減するほうが良い	62.6
4.その他	1.9
5.わからない	2.6
無回答	12.4



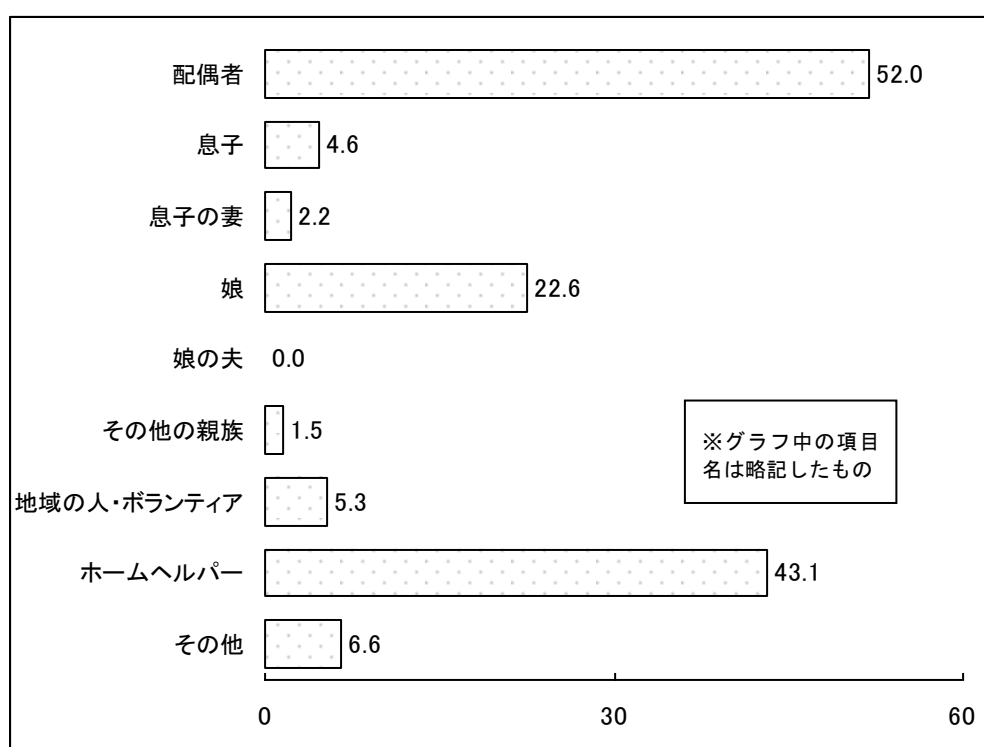
3.10 要介護状態になった場合の介護主体

問 10. もしも将来あなたが寝たきりなどになったら、誰に介護してほしいですか。
(○は2つまで)

[n=1,189]

表中の数値は回答率(%)

1.配偶者	52.0
2.息子	4.6
3.息子の妻	2.2
4.娘	22.6
5.娘の夫	0.0
6.その他の親族	1.5
7.地域の人・ボランティア	5.3
8.ホームヘルパー	43.1
9.その他	6.6
無回答	2.2



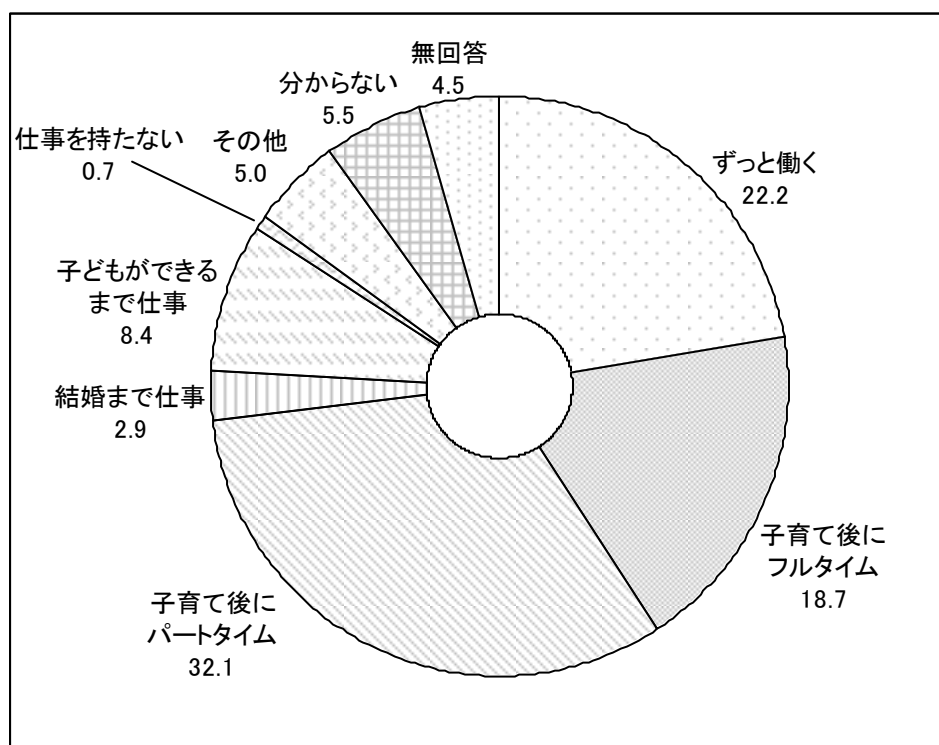
3.11 望ましい女性の働き方

問 11. 女性の働き方について、望ましいと思うのは次のどれですか。(○は1つだけ)

[n=1,189]

表中の数値は回答率(%)

1.結婚や出産に関わらず、ずっと職業を持つ	22.2
2.子育ての時期だけ一時的に仕事を辞め、その後はフルタイムで仕事を続ける	18.7
3.子育ての時期だけ一時的に仕事を辞め、その後はパートタイムで仕事を続ける	32.1
4.結婚するまで仕事を持ち、結婚後は仕事に就かない	2.9
5.子どもができるまで仕事を持ち、その後は仕事に就かない	8.4
6.仕事を持たない	0.7
7.その他	5.0
8.わからない	5.5
無回答	4.5



※グラフ中の項目名は略記したもの

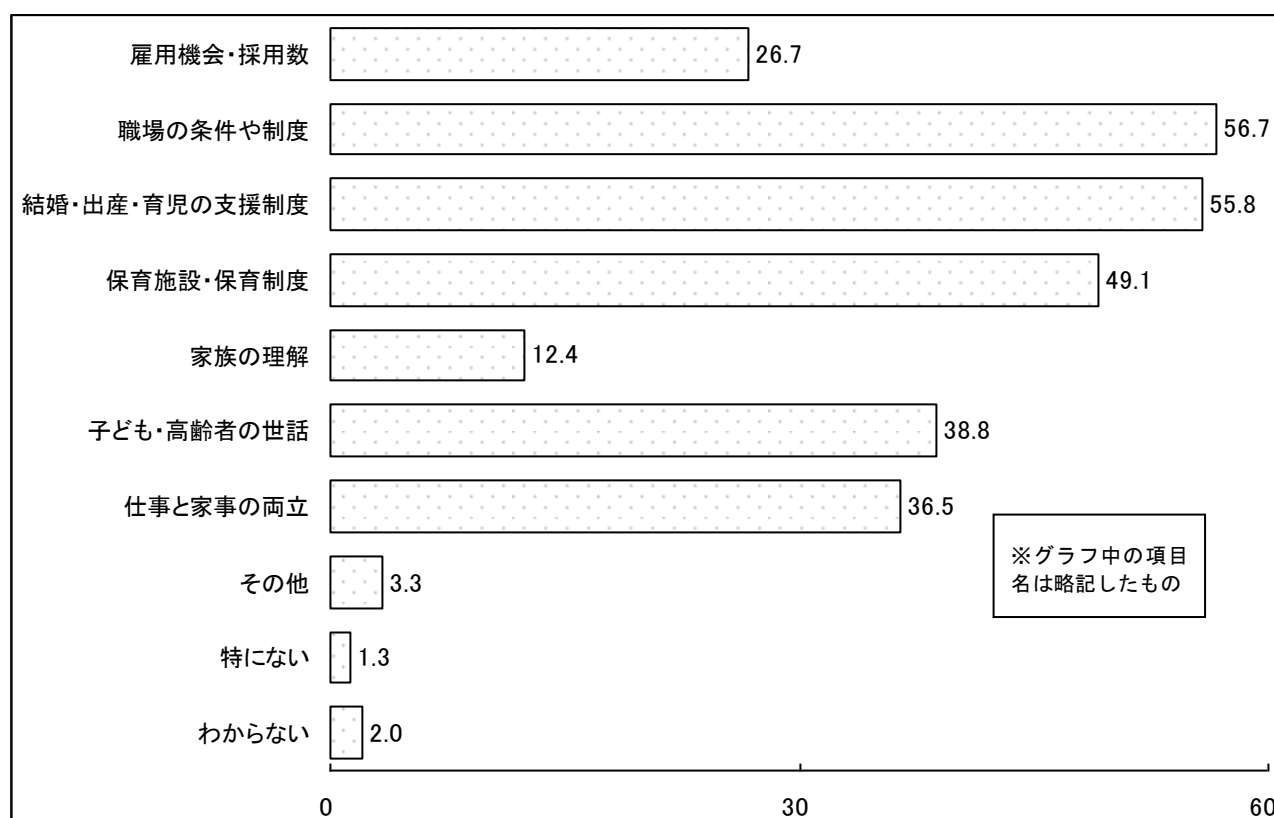
3.12 女性が仕事を続ける上での障害

問 12.女性が仕事を続ける上で障害になっているものは何だと思えますか。
 (当てはまるものすべてに○)

[n=1,189]

表中の数値は回答率(%)

1.女性の雇用機会や採用数が男性より少ないこと	26.7
2.長く働き続けるような職場の条件や制度が不十分なこと	56.7
3.結婚や出産、育児を支援する制度がなく、雇用主の理解が得られないこと	55.8
4.保育施設や保育制度が不十分なこと	49.1
5.家族の理解が得られないこと	12.4
6.子どもや病人、高齢者の世話が女性だけに任せられていること	38.8
7.仕事と家事が両立できないこと	36.5
8.その他	3.3
9.特にない	1.3
10.わからない	2.0



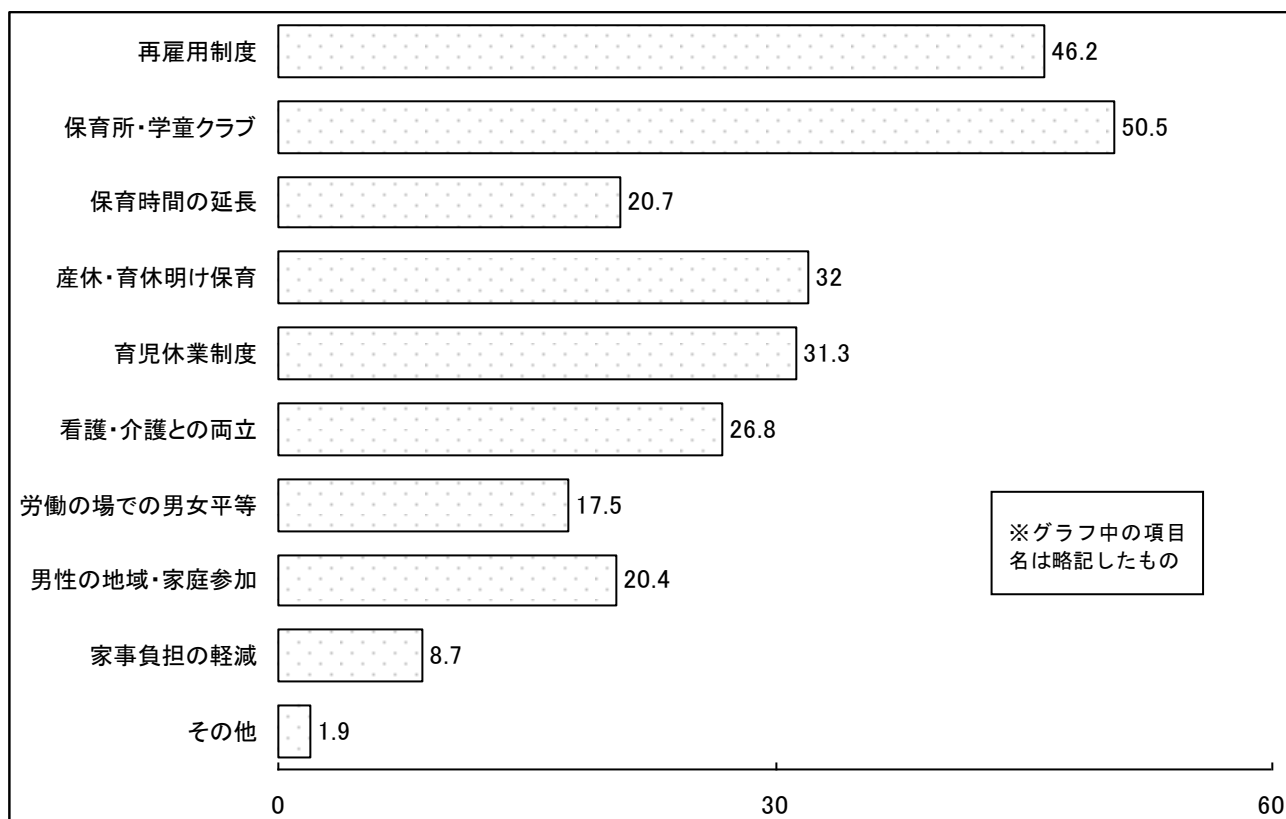
3.13 女性が働きやすい環境

問 13.雇用の場への女性の進出が進む中で女性が働きやすい環境をつくるためには、特にどのようなことが必要だと思いますか（○は3つまで）

[n=1,189]

表中の数値は回答率(%)

1.再雇用制度の促進	46.2
2.保育所の整備・充実、放課後児童クラブ（学童保育）の充実	50.5
3.保育時間の延長	20.7
4.産後休暇・育児休暇明け保育の充実	32.0
5.育児休業制度の定着促進	31.3
6.介護・看護との両立を支援する体制の整備	26.8
7.昇進・昇給や仕事の分担など、労働の場での男女平等の推進	17.5
8.男性の地域社会活動や家庭生活への参加促進	20.4
9.家事の省力化・外部化などによる家事負担の軽減	8.7
10.その他	1.9



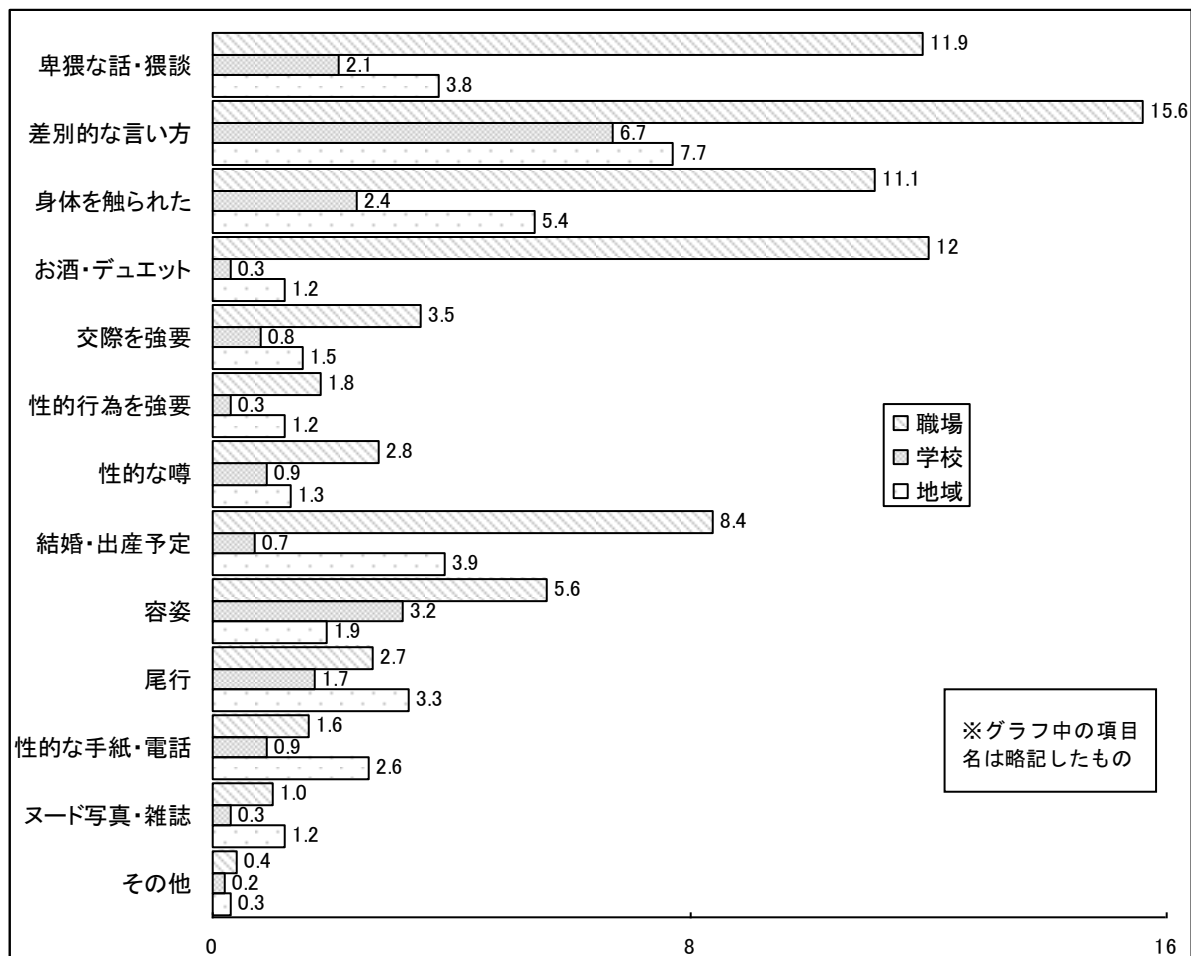
3.14 セクシュアル・ハラスメントの現状

問 14. これまでに、職場・学校・地域で次のような経験をしたことがありますか。
 (○は職場、学校、地域ごとに当てはまるものすべて)

[n=1,189]

表中の数値は回答率(%)

	職場	学校	地域
(ア) いやがっているのに卑猥な話や猥談を聞かされた	11.9	2.1	3.8
(イ) 「女(男)のくせに」「女(男)だから」と差別的な言い方をされた	15.6	6.7	7.7
(ウ) 異性に身体を触られた・じろじろ見られた	11.1	2.4	5.4
(エ) 宴会でお酒やデュエットを強要された	12.0	0.3	1.2
(オ) 交際を強要された	3.5	0.8	1.5
(カ) 性的な行為を強要された	1.8	0.3	1.2
(キ) 性的な噂をたてられた	2.8	0.9	1.3
(ク) 結婚や出産の予定をたびたび聞かれた	8.4	0.7	3.9
(ケ) 容姿について繰り返し言われた	5.6	3.2	1.9
(コ) 帰宅途中、後をつけられた	2.7	1.7	3.3
(サ) 性的な内容の手紙や電話を受けた	1.6	0.9	2.6
(シ) ヌード写真や卑猥な雑誌を目に付くところに張られた・見せられた	1.0	0.3	1.2
(ス) その他	0.4	0.2	0.3



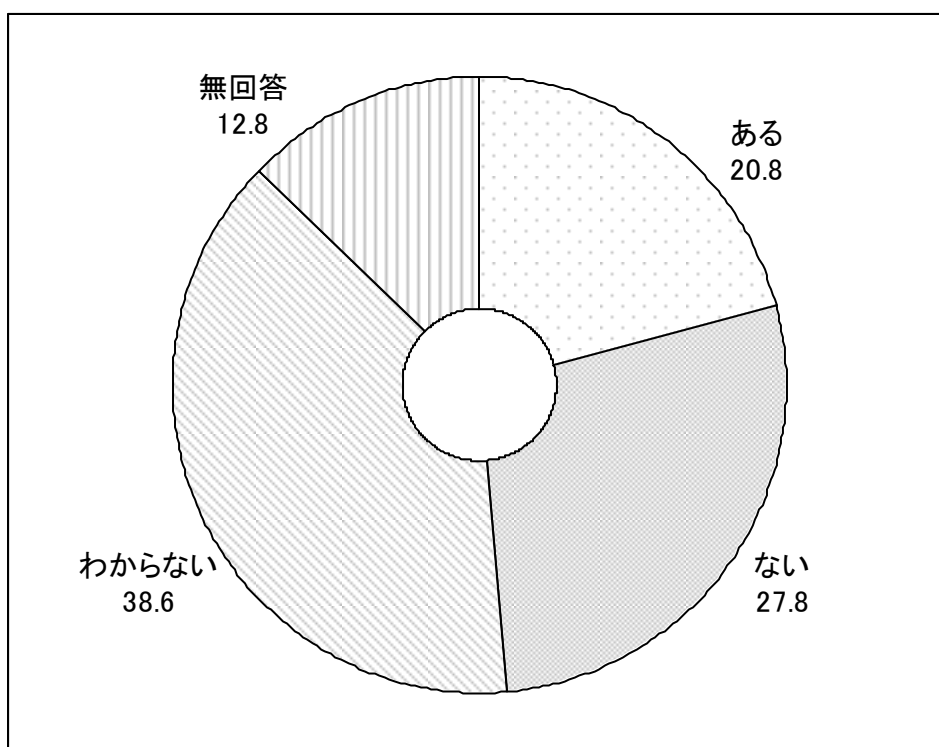
3.15 セクシュアル・ハラスメントの相談窓口

問 15.あなたの職場・学校・地域には、セクシュアル・ハラスメントの相談を受け付ける窓口がありますか。(○は1つだけ)

[n=1,189]

表中の数値は回答率(%)

1.ある	20.8	3.わからない	38.6
2.ない	27.8	無回答	12.8



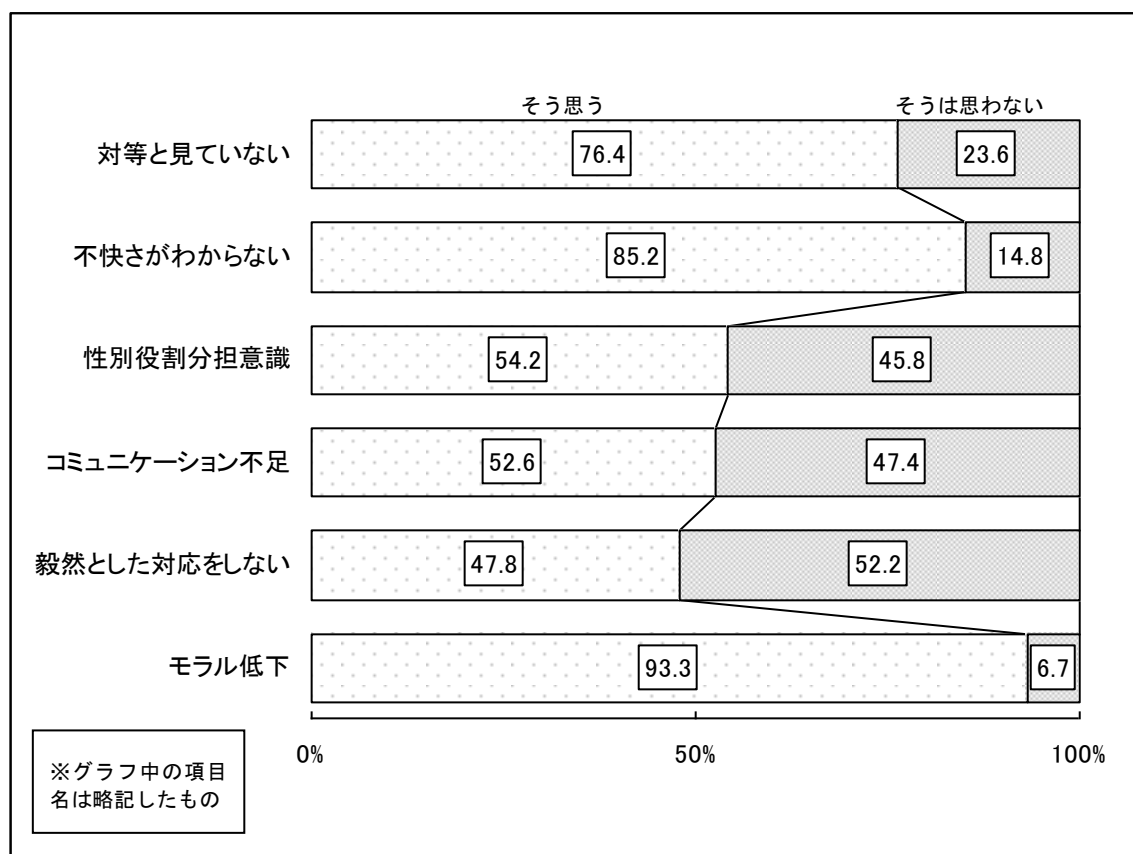
3.16 セクシュアル・ハラスメントの原因

問 16.セクシュアル・ハラスメントが起こる原因は何だと思いますか。(○はそれぞれ1つずつ)

[n=1,189]

表中の数値は回答率(%)

	そう思う	そうは 思わない	無回答
(ア) 相手を対等なパートナーとして見ていないから	57.1	17.7	25.2
(イ) 性的言動を相手が不快に思うことがわかっていないから	64.2	11.2	24.6
(ウ) 固定的な性別役割分担意識にとらわれすぎているから	38.5	32.5	28.9
(エ) 日常的なコミュニケーションが不足しているから	39.1	35.2	25.7
(オ) 受ける側が毅然とした対応をしないから	36.0	39.4	24.6
(カ) 一部にモラルの低い人がいるから	72.0	5.1	22.9
(キ) その他	1.5	0.0	98.5



※回答率は無回答・その他を除いて再計算したもの

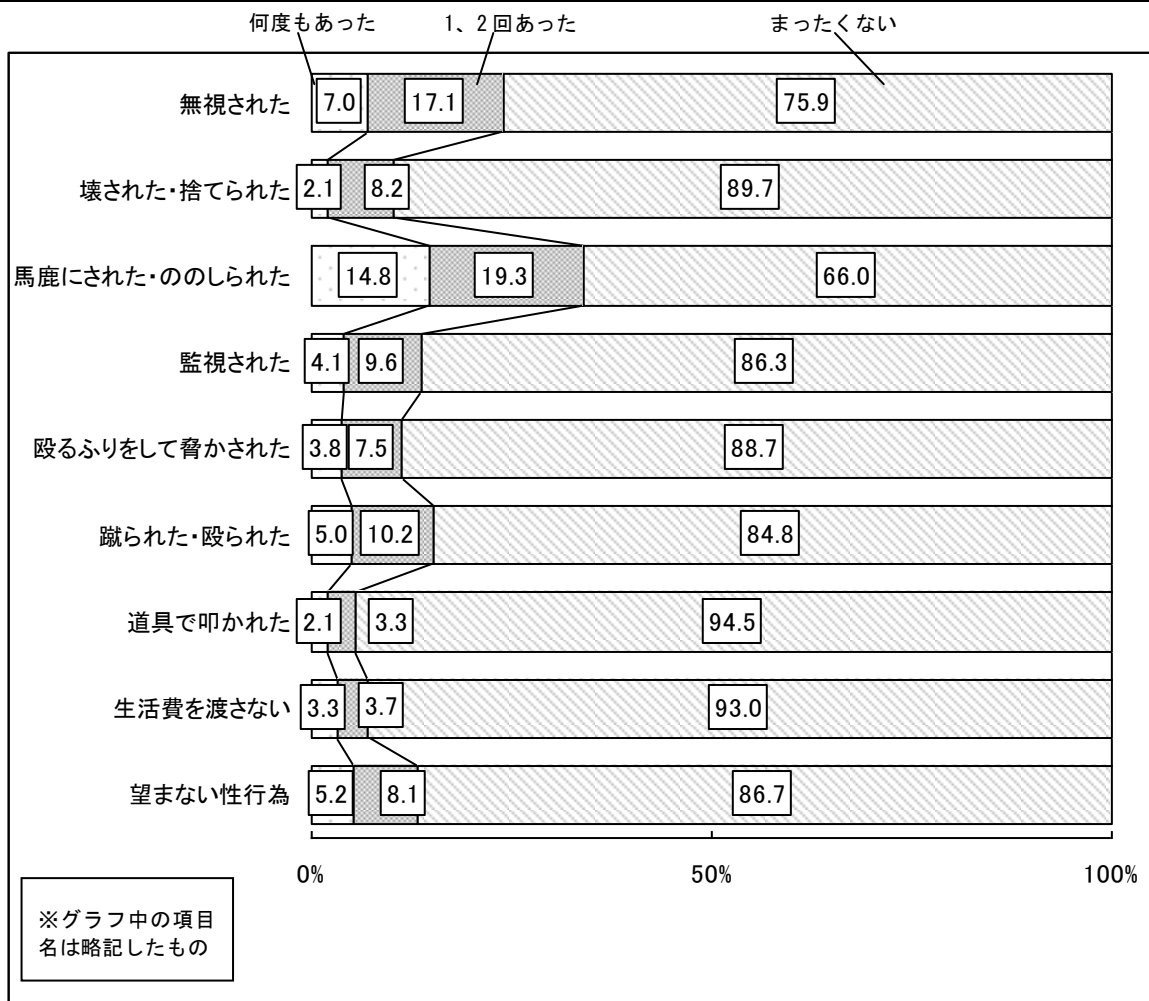
3.17 ドメスティック・バイオレンスの現状

問 17.今までに、夫・妻・恋人などの親密な関係にあるパートナーから次のようなことを受けたことがありますか。(○はそれぞれ1つずつ)

[n=1,189]

表中の数値は回答率(%)

	あつた 何 度も	あつた 1、 2回	ま った く な い	無 回 答
(ア) 何をやっても、何を言っても無視された	5.6	13.6	60.3	20.5
(イ) 大切にしているものをわざと壊された・捨てられた	1.7	6.5	70.7	21.1
(ウ) 馬鹿にされた・ののしられた・命令口調でものを言われた	11.8	15.4	52.6	20.2
(エ) 交友関係や電話・メールを細かく監視された	3.3	7.6	68.3	20.9
(オ) 拳や身体を傷つける可能性のあるもので殴るふりをして脅かされた	3.0	5.9	69.8	21.3
(カ) 平手で打たれた・蹴られた・噛まれた・拳で殴られた	4.0	8.1	67.3	20.7
(キ) 身体を傷つける可能性のあるもので叩かれた	1.7	2.6	74.3	21.4
(ク) 生活費を渡してくれない	2.6	2.9	72.7	21.9
(ケ) 望まない性行為を強要された	4.0	6.3	67.7	22.0
(コ) その他	0.3	0.0	15.0	84.8



※回答率は無回答・その他を除いて再計算したもの

問 17-1.これまでに、**問 17.**で挙げたような行為について、誰かに打ち明けたり相談したりしましたか。(○は1つだけ)

[n=399]

表中の数値は回答率(%)

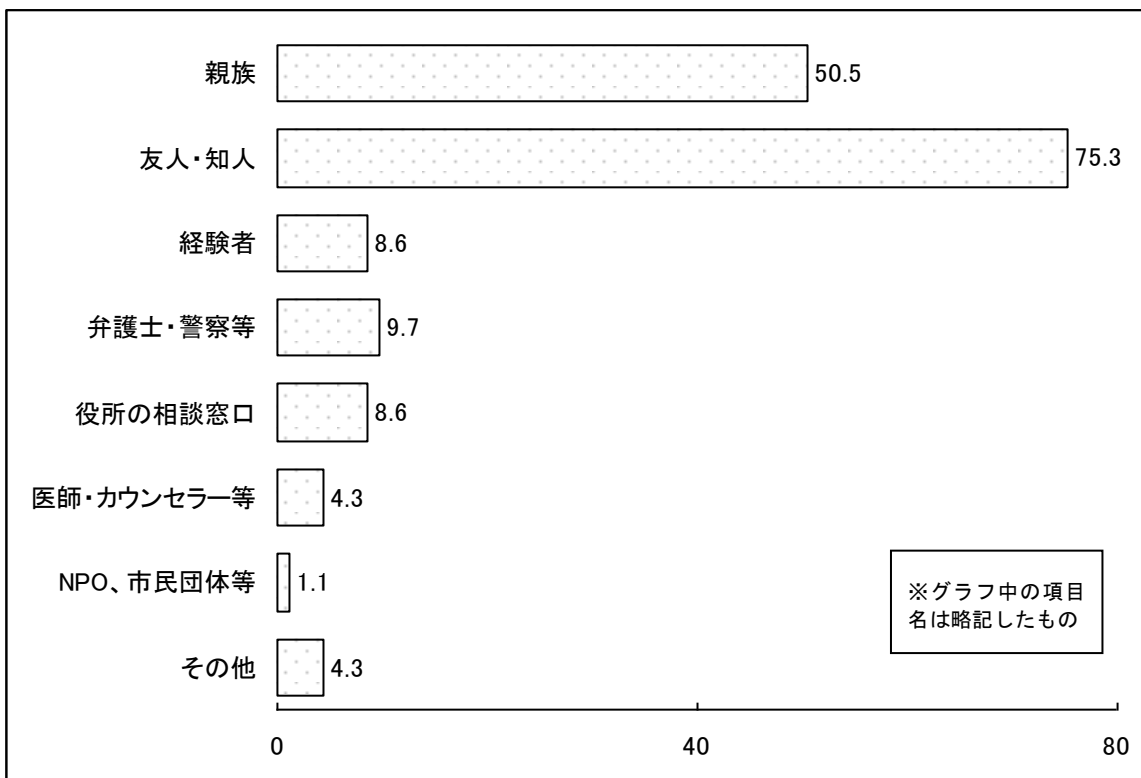
1.相談した	23.3
2.相談したかったが、しなかった	10.3
3.相談しようとは思わなかった	66.4

問 17-2.実際に、誰に（どこに）相談しましたか。(○は当てはまるものすべて)

[n=93]

表中の数値は回答率(%)

1.親族	50.5	5.役所の相談窓口	8.6
2.友人・知人	75.3	6.医師・カウンセラー等	4.3
3.同じような経験をした人	8.6	7.NPO、市民団体等	1.1
4.家庭裁判所・弁護士・警察等	9.7	8.その他	4.3

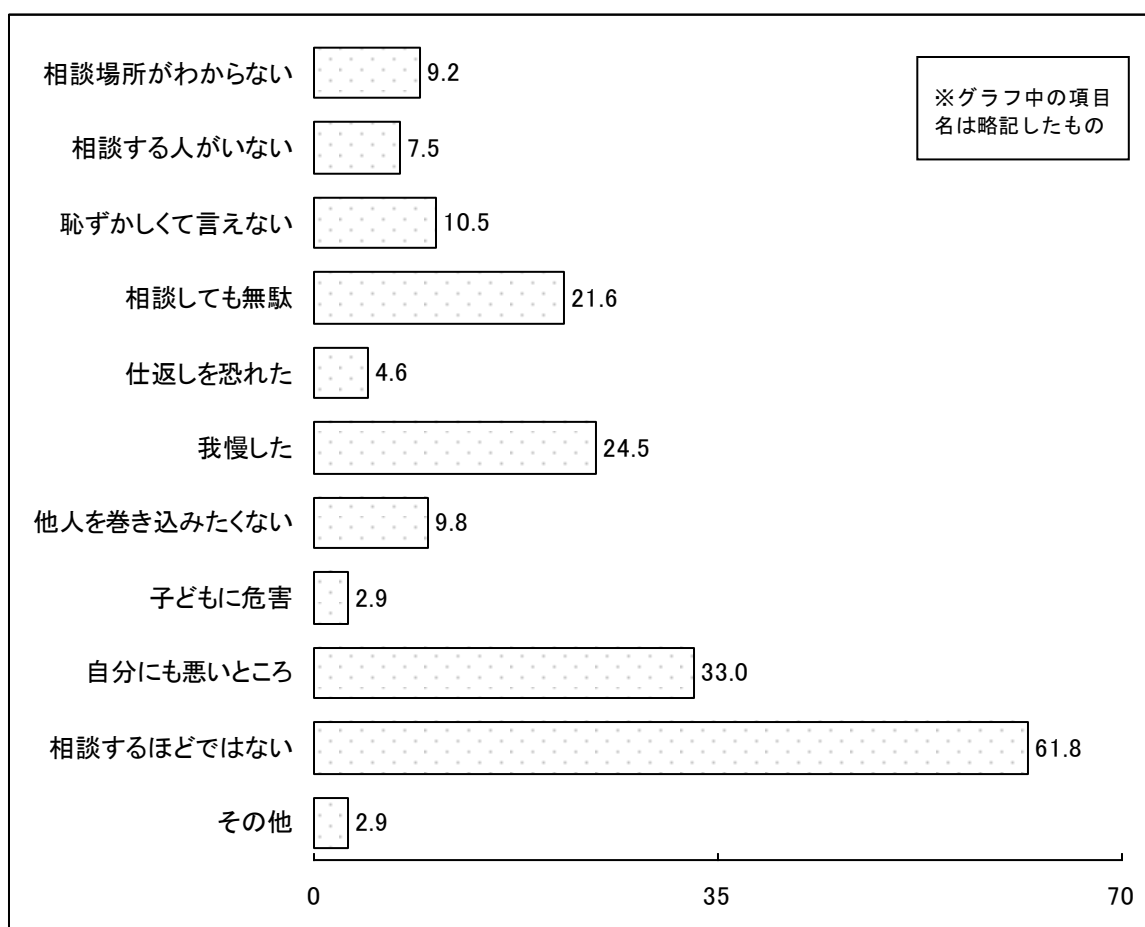


問 17-3.誰（どこ）にも相談しなかったのは、なぜですか。（○は当てはまるものすべて）

[n=306]

表中の数値は回答率(%)

1.誰に（どこに）相談してよいかわからなかった	9.2
2.相談する人がいなかった	7.5
3.恥ずかしくて誰にも言えなかった	10.5
4.相談しても無駄だと思った	21.6
5.相談したことが分ると、仕返しを受けたり、もっとひどい暴力を受けると思った	4.6
6.自分さえ我慢すれば、何とかこのままやっていけると思った	24.5
7.他人を巻き込みたくなかった	9.8
8.子どもに危害が及ぶと思った	2.9
9.自分にも悪いところがあると思った	33.0
10.相談するほどのことではないと思った	61.8
11.その他	2.9



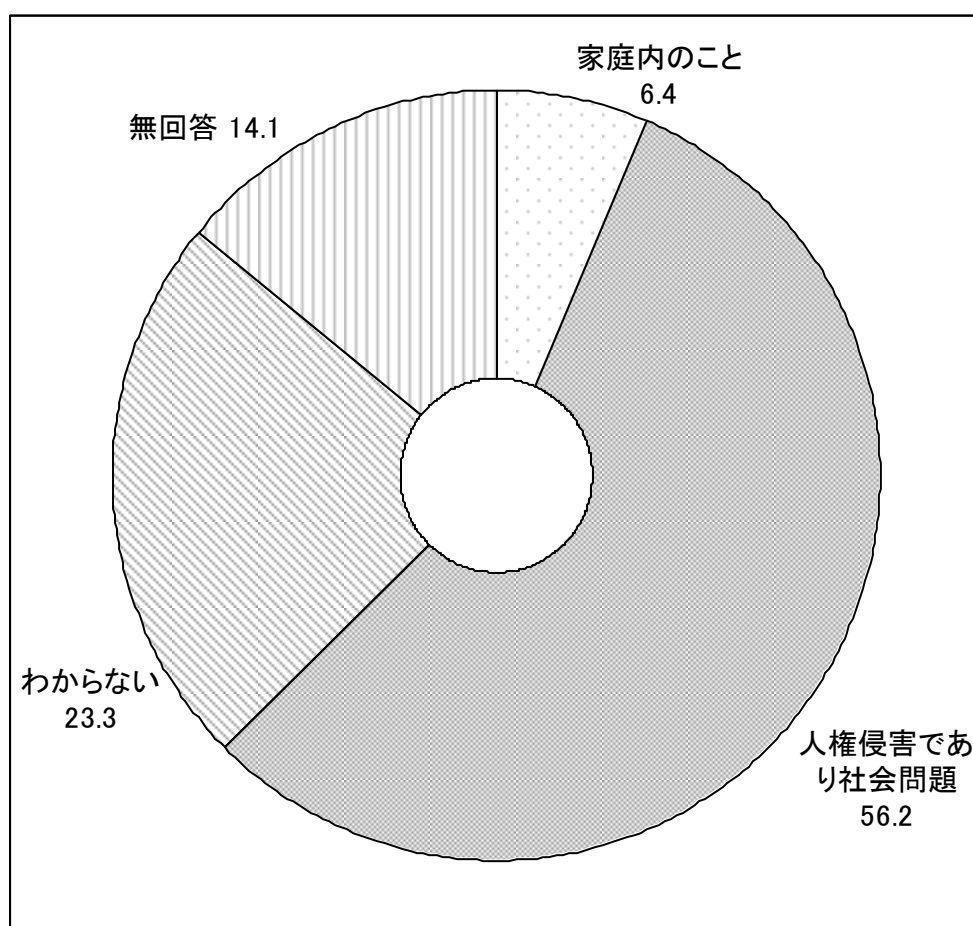
3.18 DV防止法とドメスティック・バイオレンスについての意識

問 18.夫・妻・恋人などの親密な関係にあるパートナーからの暴力については、すでに「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律」（通称：DV防止法）が施行されていますが、どのようにお考えですか（○は1つだけ）

[n=1,189]

表中の数値は回答率(%)

1.家庭内のことなので、社会問題として取り上げる必要はない	6.4
2.人権侵害であり、社会問題として取り上げられるべきだ	56.2
3.社会問題として取り上げるべきかどうか分からない	23.3
無回答	14.1



※グラフ中の項目名は略記したもの

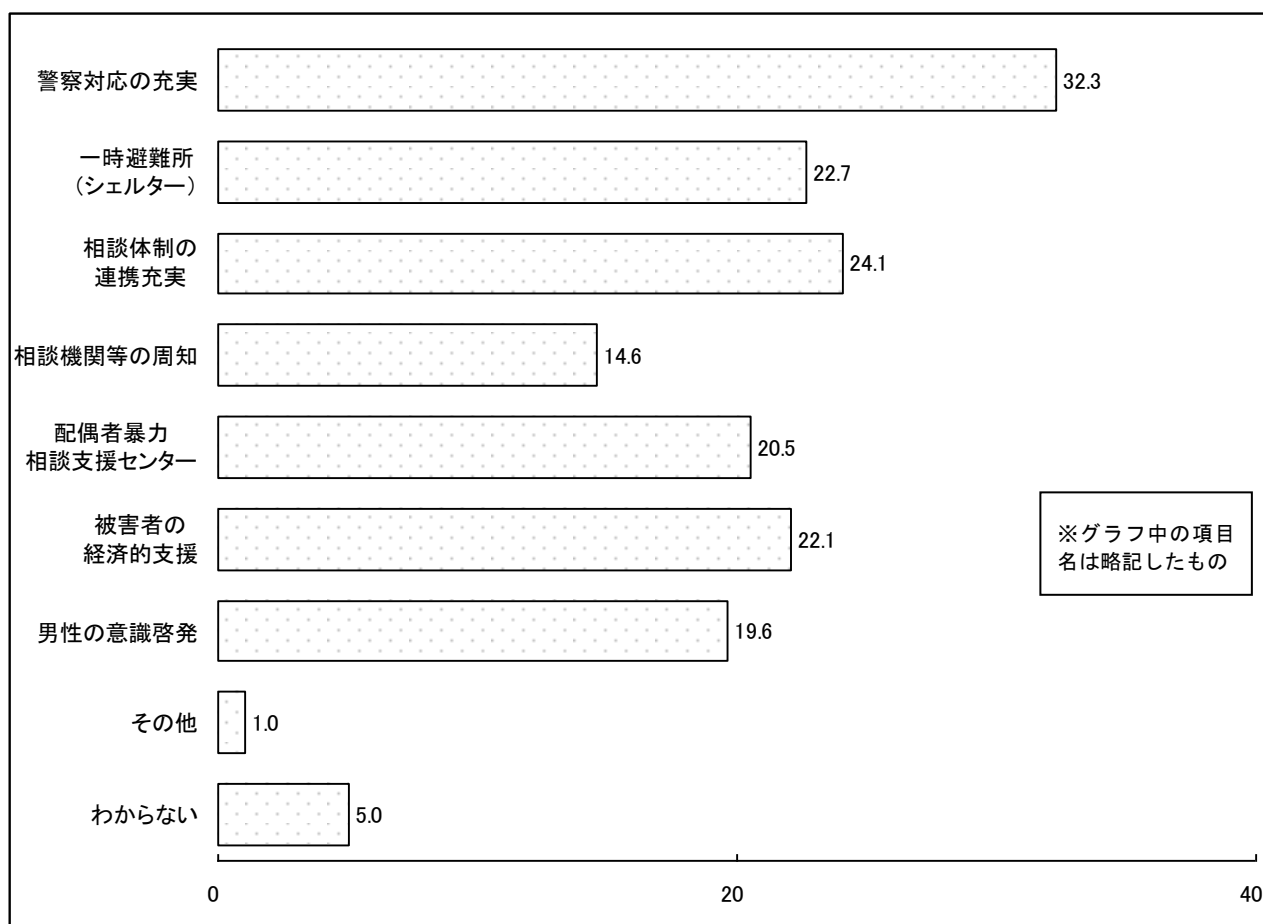
3.19 行政に望む女性に対する暴力への対応

問 19.女性に対する暴力について、今後行政に対して特にどのような対応を望みますか (○は2つまで)

[n=1,189]

表中の数値は回答率(%)

1.警察による対応の充実	32.3
2.一時避難所（シェルター）の確保	22.7
3.相談体制の連携充実	24.1
4.相談機関等の周知	14.6
5.配偶者暴力相談支援センターの整備	20.5
6.被害者の自立のための経済的支援	22.1
7.男性の意識啓発	19.6
8.その他	1.0
9.わからない	5.0

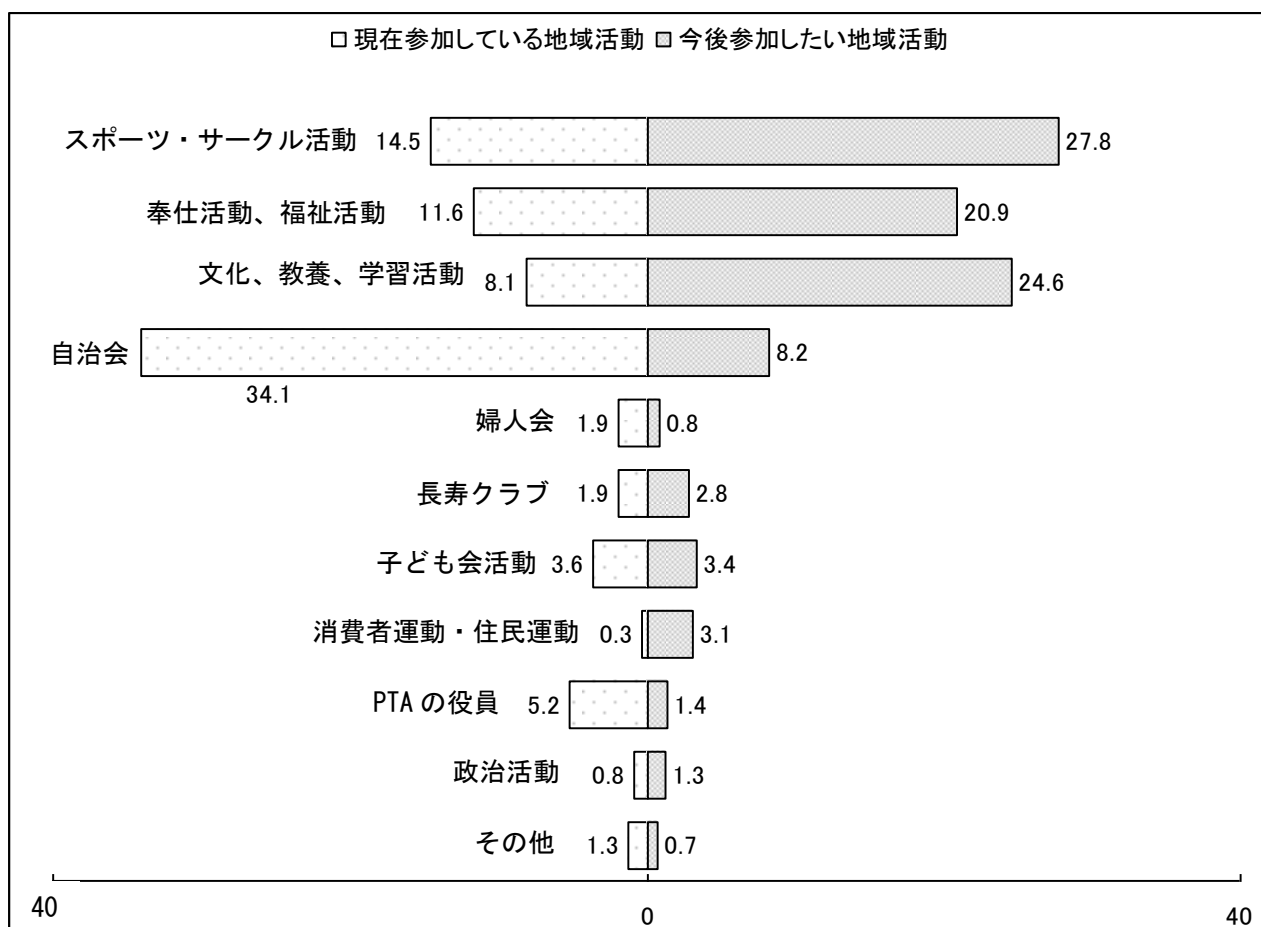


3.20 地域活動への参加状況

問 20. 次の地域活動の中で、「現在参加しているもの」、「今後参加したいもの」について、それぞれ選んでください。(○は当てはまるものすべて)

[n=1,189]
表中の数値は回答率(%)

	現在参加している 地域活動	今後参加したい 地域活動
1.スポーツ・サークル活動	14.5	27.8
2.奉仕活動、福祉活動	11.6	20.9
3.文化、教養、学習活動	8.1	24.6
4.自治会	34.1	8.2
5.婦人会	1.9	0.8
6.長寿クラブ	1.9	2.8
7.子ども会活動	3.6	3.4
8.消費者運動・住民運動	0.3	3.1
9.PTAの役員	5.2	1.4
10.政治活動	0.8	1.3
11.その他	1.3	0.7



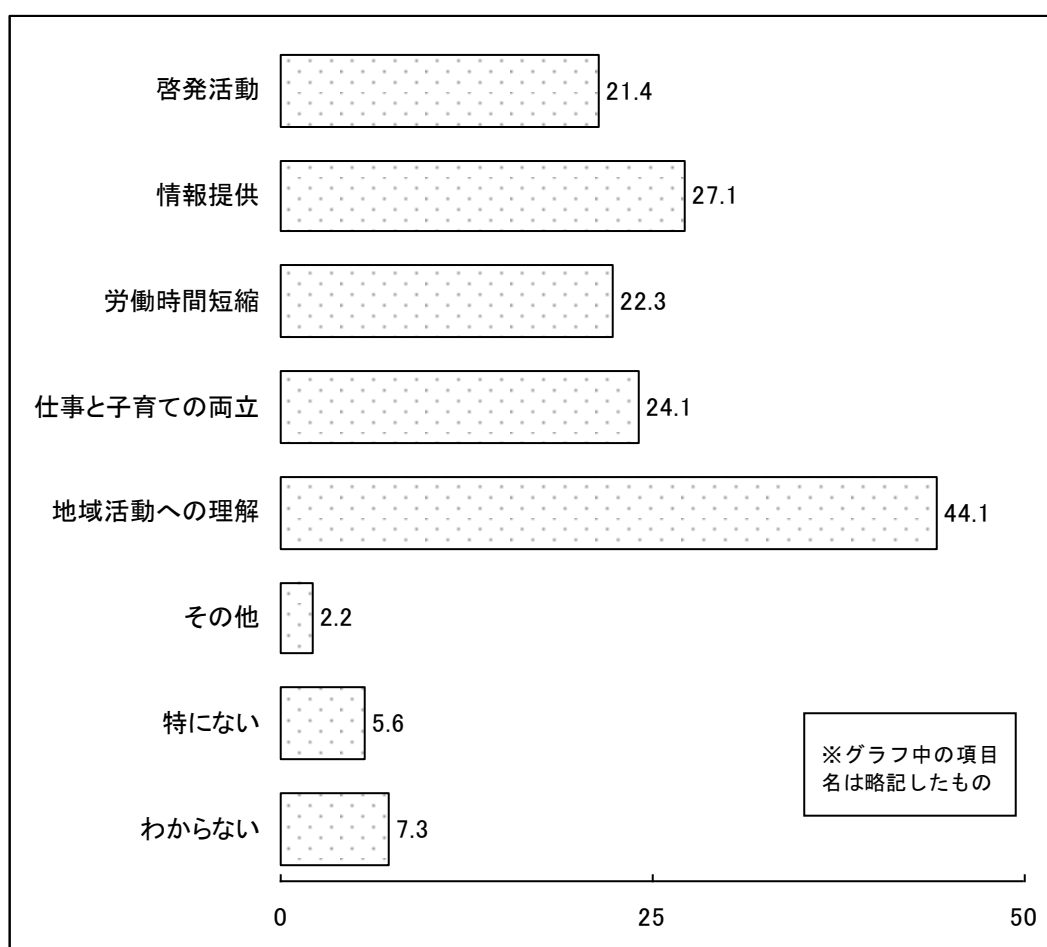
3.21 男性の地域活動・家庭生活への参加促進

問 21.これまで男性は、地域活動や家庭生活への参加が比較的少なかったと言われています。
 地域活動や家庭生活への男性の参加を促進するためには、何が重要だと思いますか。
 (〇は2つまで)

[n=1,189]

表中の数値は回答率(%)

1.地域活動や家庭生活への参加を促進するための啓発活動をする	21.4
2.地域活動に関する情報提供を促進する	27.1
3.労働時間を短くして余暇を増やす	22.3
4.仕事と子育ての両立を支援する体制を整備する	24.1
5.企業など職場における地域活動への理解を得やすい環境づくりを推進する	44.1
6.その他	2.2
7.特にない	5.6
8.わからない	7.3



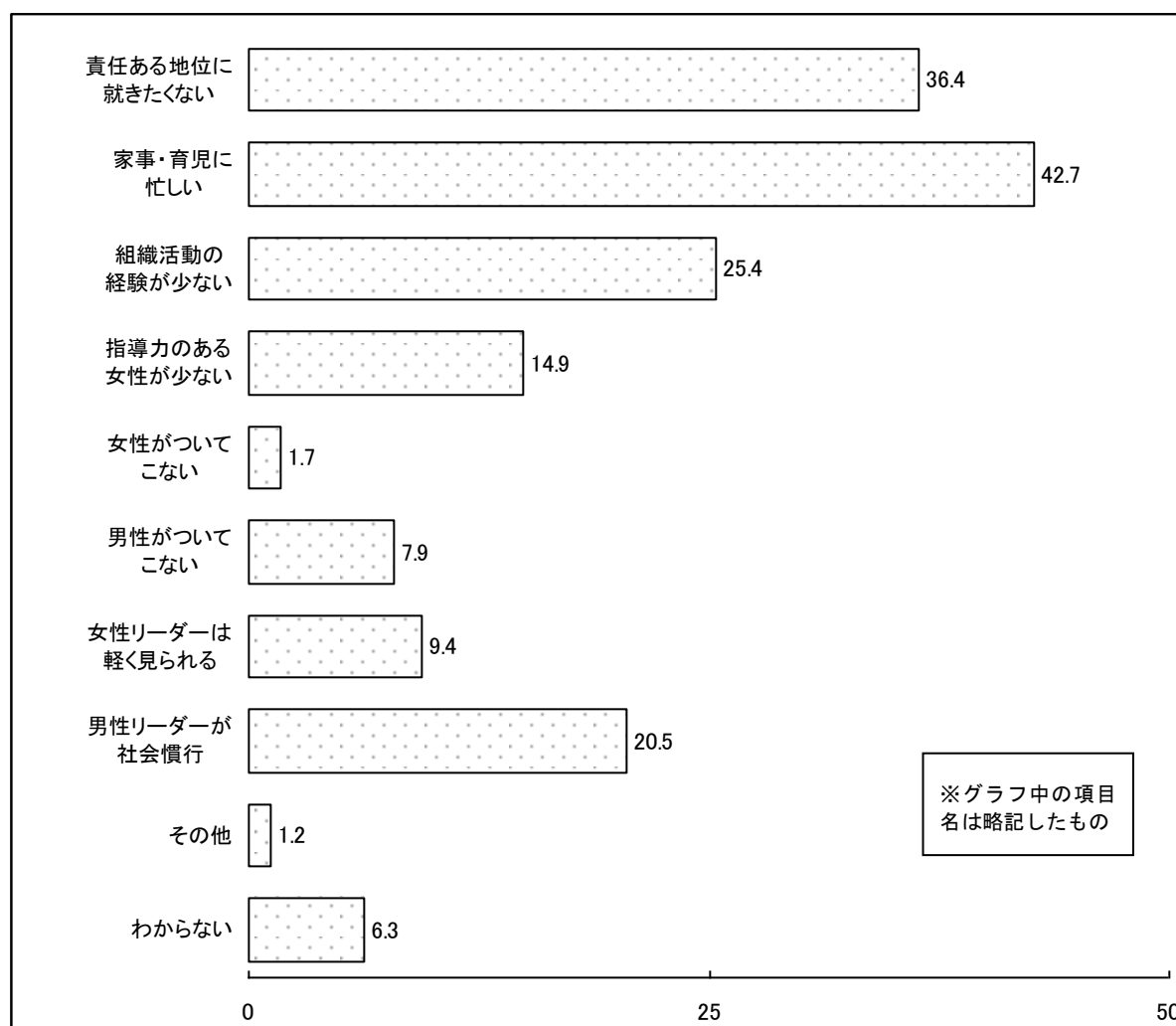
3.22 女性リーダーが少ない理由

問 22.自治会や PTA などの活動では、女性の会長やリーダーが少ない傾向にありますが、その原因は何だと思えますか。(〇は2つまで)

[n=1,189]

表中の数値は回答率(%)

1.責任ある地位に就きたくないと考えている女性が多い	36.4
2.家事・育児に忙しく、地域活動に専念できない女性が多い	42.7
3.組織活動の経験が少ない女性が多い	25.4
4.指導力のある女性が少ない	14.9
5.女性がリーダーでは、女性がついてこない	1.7
6.女性がリーダーでは、男性がついてこない	7.9
7.女性がリーダーでは軽く見られる	9.4
8.男性がリーダーとなるのが社会慣行である	20.5
9.その他	1.2
10.わからない	6.3



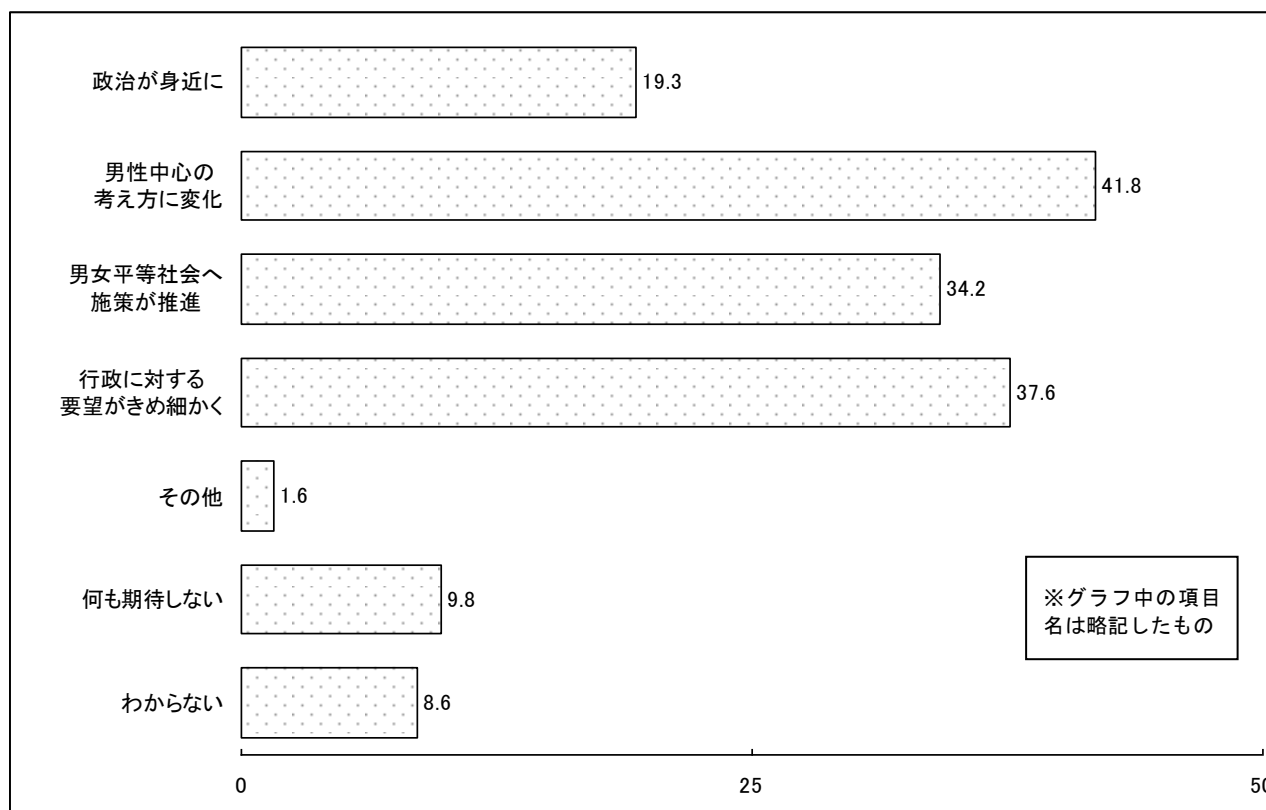
3.23 女性の政治参画による社会変化への期待

問 23.政治や政策決定の場への女性の参画の機会が増えることによって、社会がどう変化することに期待しますか。(○は2つまで)

[n=1,189]

表中の数値は回答率(%)

1.政治が身近になる	19.3
2.男性中心の考え方に変化が生じる	41.8
3.男女平等社会に向けて施策が推進される	34.2
4.行政に対する要望がきめ細かくなる	37.6
5.その他	1.6
6.何も期待しない	9.8
7.わからない	8.6



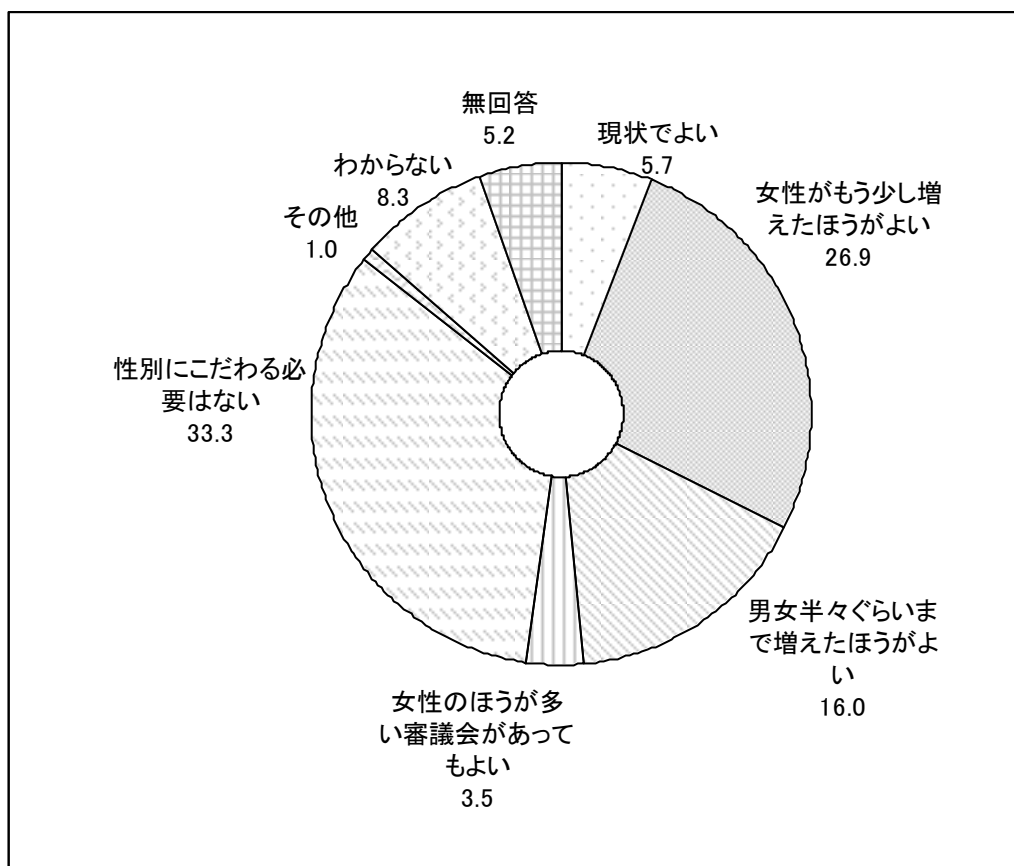
3.24 審議会への女性委員の登用状況

問 24.茂原市では、審議会等の女性委員の登用率が平成 18 年度で 20.0%となっています。このことについて、あなたはどのように思いますか。(○は1つだけ)

[n=1,189]

表中の数値は回答率(%)

1.現状でよい	5.7
2.女性がもう少し増えたほうがよい	26.9
3.男女半々ぐらいまで増えたほうがよい	16.0
4.女性のほうが多い審議会があってもよい	3.5
5.性別にこだわる必要はない	33.3
6.その他	1.0
7.わからない	8.3
無回答	5.2



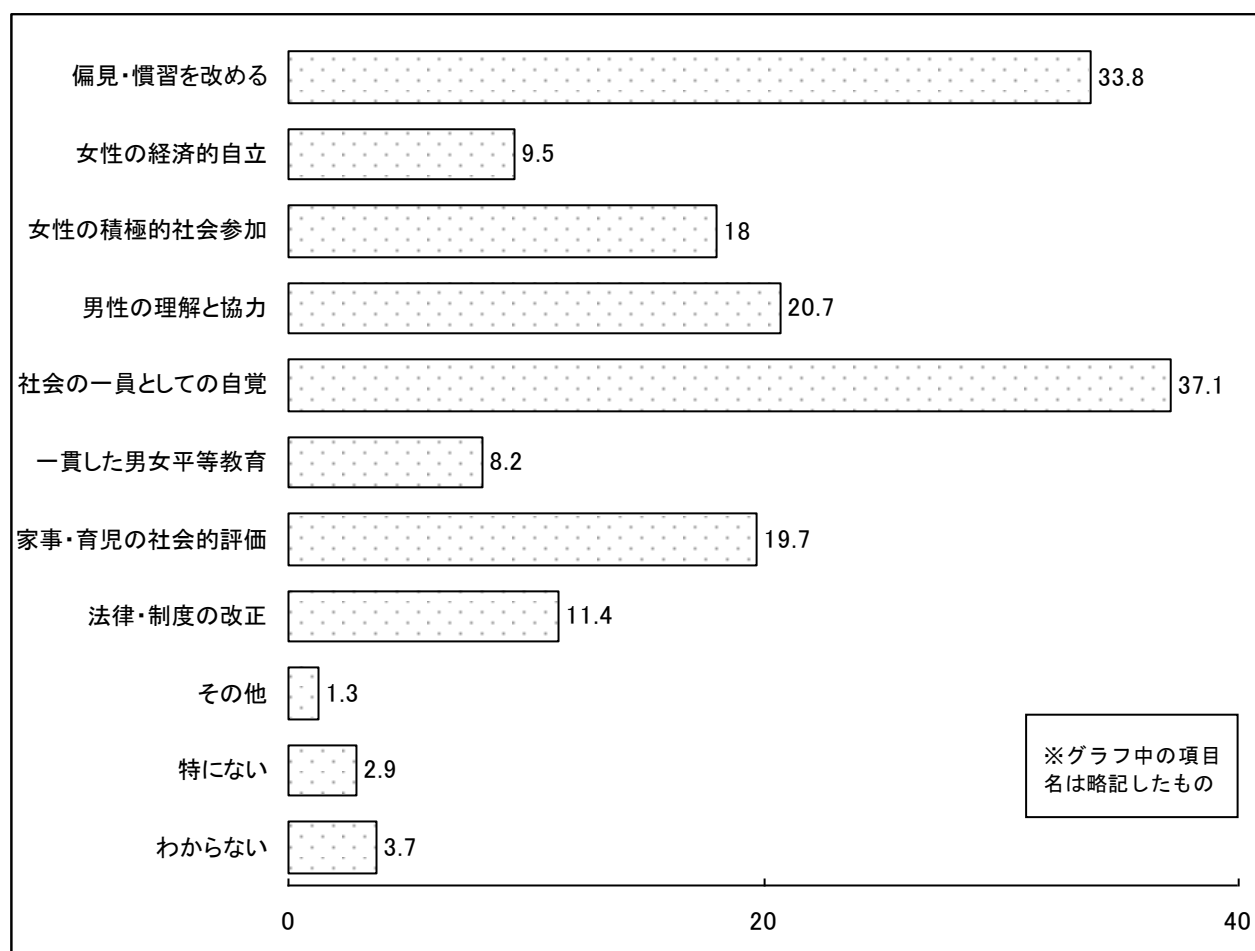
3.25 男女共同参画社会の実現に向けて必要なこと

問 25.女性の社会参加を進め、男女があらゆる分野で平等な立場で協力しあっていくためには、どんなことが必要だと思いますか。(〇は2つまで)

[n=1,189]

表中の数値は回答率(%)

1.女性に対する偏見や社会的なしきたり、慣習を改める	33.8
2.女性が経済的に自立する	9.5
3.職場・政治などの面を含め、女性が積極的に社会参加する	18.0
4.男性の理解と協力を得る	20.7
5.男女とも、社会の一員としての自覚と責任を持つ	37.1
6.子どもの時の家庭でのしつけから学校教育まで、一貫して男女平等教育をする	8.2
7.家事・育児が社会的に十分評価される	19.7
8.男女平等のための法律・制度の改正や行政の施策を充実する	11.4
9.その他	1.3
10.特にない	2.9
11.わからない	3.7



3.26 男女共同参画社会の実現に向けた市への要望

問 26.男女共同参画社会を実現するために、茂原市にどのようなことを期待しますか（○は3つまで）

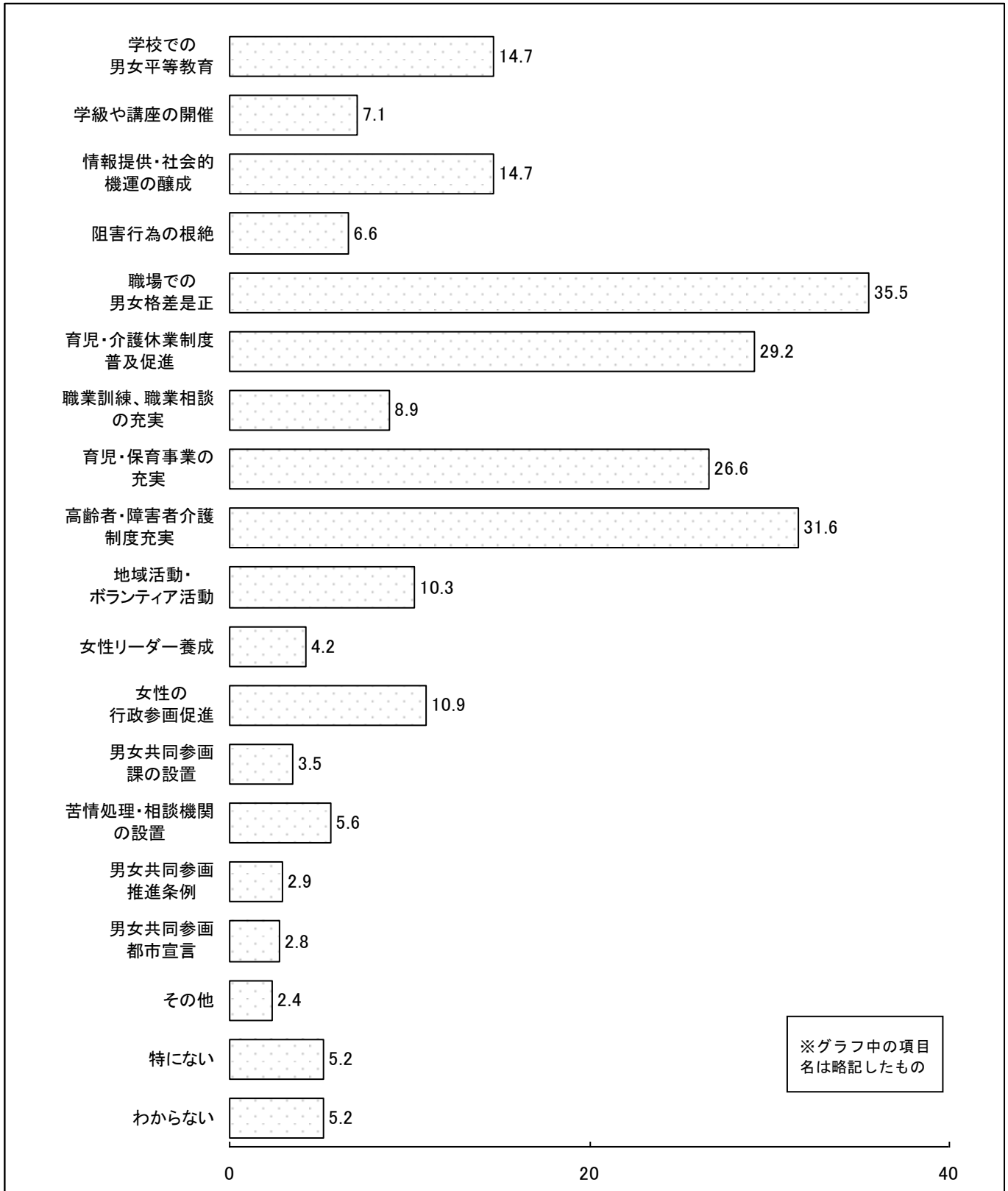
[n=1,189]

表中の数値は回答率(%)

1.学校教育での男女平等教育の推進	14.7
2.男女平等、男女共同参画についての学級や講座の開催	7.1
3.男女平等に関する情報提供や社会的機運の醸成	14.7
4.男女共同参画を阻害する行為の根絶のための取り組み	6.6
5.職場における男女格差の是正や女性の労働条件の改善	35.5
6.育児・介護休業制度の普及促進	29.2
7.職業訓練、職業相談の充実	8.9
8.育児・保育事業の充実	26.6
9.高齢者・障害者の介護制度の充実	31.6
10.地域活動やボランティア活動の促進	10.3
11.女性グループのリーダー養成	4.2
12.審議会など女性の行政への参画促進	10.9
13.男女共同参画推進を専門に担当する課の設置	3.5
14.男女共同参画に関する苦情処理・相談機関の設置	5.6
15.男女共同参画推進条例の制定	2.9
16.男女共同参画都市の宣言	2.8
17.その他	2.4
18.特にない	5.2
19.わからない	5.2

上位5件

①職場における男女格差の是正や女性の労働条件の改善	35.5%
②高齢者・障害者の介護制度の充実	31.6%
③育児・介護休業制度の普及促進	29.2%
④育児・保育事業の充実	26.6%
⑤学校教育での男女平等教育の推進	14.7%
⑥男女平等に関する情報提供や社会的機運の醸成	14.7%



3.27 男女共同参画社会づくりに関する意見・要望

問 27.男女共同参画社会づくりに関して、ご意見・ご要望などご自由にお書きください。

男女共同参画社会づくりに関する意見・要望については、回答者 1,189 人のうち、170 人（男性 72 名・女性 96 名・不明 2 名）の方から回答が寄せられました。

ここでは意見や要望の概要について、内容を分類して主なものをまとめました。

多くの貴重なご意見・ご要望をお寄せいただき、ありがとうございました。

社会全般に関すること

- 各自の生き方・やりたいことが多様化される中で、何をやっても自由とする未成熟な時代を通過して少しずつ成熟化に向かうと思う。多様性の時代で最も重要なことは、「人間としての基本は何か」ということ。「社会のあり方の基本とは何か」を軸に発想すべきと考えます。(60代・男性)
- 男女を意識する前に 1 人の人間として正しい人、素晴らしい人に成長して行ってほしい。心の貧しい人、ずるい人、自分勝手な人が多すぎる。女性も文句ばかり言わないで自分自身を高めるべき。能力もなしに男女共同参画と騒いではおかしい。(30代・女性)
- 基本的な人としての教育が低い人や意識が低い人に「男女共同参画社会」と言ったところで、解決が進むとは考えにくい。地域のモラルの向上がすべて（環境問題・社会問題・教育問題）の問題解決への糸口になるものと考えられる。(40代・男性)
- 女性への理解、男性への理解、相互の歩み寄りから始めるのが良い(20代・女性)
- 地域ごとに昔からのしきたりが多い。時代に合わないことを平気でやっている地域がありすぎる。もっともっと社会に出なくては、今のままでは、協力し合えることが非常に難しい。(40代・男性)
- 一般社会人が男女共同参画社会について考える時間が少ないと思う。現在を生きる事でいっぱい。学校教育から自然に身につけることだと思う。(60代・男性)
- 女性の社会での立場の向上が低いので、どうしても控えにまわっているように見受けられる。教育の男女の別なく教育の一貫性と地位の向上、出産・子育てに関する支援の充実が急がれる事を望む。(40代・女性)
- 老若男女を問わず、働ける環境を増やす事が第一。長期的なスパンで教育システムを整える事が必要。(50代・男性)
- 自治会の役員を 20 余年続けているが、近年人とのかかわりを極端に嫌う、または無視する人たちが少なからず存在するのを見受けます。人は一人で他人の世話にならずに生きていくことなどできません。家庭の温かさ、近所の人たちとのふれあい、自治会活動への参加、行政への働きかけ、男女共同参画社会づくり…と段階を経てそこにたどり着ければ、自然に成し得るように思います。(50代・男性)
- 住民が住みやすい、働きやすい、子育て・教育等が安心して暮らせる社会になってほしいと思う。(60代・女性)

- 心身ともに健康な家族をつくるには、男女共同参画も必要かもしれないが、心身の健康から考えないと、健康な社会は築かれないのではと考えます。いま言われている食育も重要な気がします。男女それぞれ有能な人物は適材適所で活躍されることを望みます。(60代・女性)
- お互いが尊敬し合い、それぞれの特性を活かして活躍できればいいと思う。今後、男女共同参画社会をつくっていくにあたり、お互いの能力を十分活かせるような仕組みをつくっていただきたい。(30代・男性)
- 女性が子育てと仕事を両立させるのは非常に難しいと思います。家族や職場・行政の協力、子どもや本人の健康状態、仕事に対する本人の資質・能力・熱意…これら全てが必要ですが、そんなことはありえないと思います。社会全体にゆとりがあればいいのですが、能力主義が優先する今の社会ではそういきません。(50代・男性)
- 男女の差をなくすにはどうあるべきかを考えるよりも、根本的に人間性を充実させることを社会全体で考えることが大事だと思います。(40代・女性)
- 第一に社会、学校その他あらゆる場面で女性の意見や考え方を聞くという社会的概念を醸成することである。そのためには、子ども時代からの男女平等意識の教育は言うまでもなく、成人に対する男女共同参画意識の繰り返した意識改革が最重要となる。(60代・男性)
- 将来、私の見守る女兒の孫 2 人の成長と重ねて、全ての女性が人として心豊かに幸福に生きられる社会となることを心から願います。(60代・女性)
- 青少年の健全育成を重要課題に、市民一体となって取り組むべき。低所得者層、高齢者に対する支援対策を。(70歳以上・男性)
- みんなの参加がなければ何もできない。ボランティア、地域の活動を積極的に参加し、そのことを誰もが知って協力していかなければいいアイデアも浮かばないと思う。できること、簡単なことからぜひ社会参加をしていかなければならないことだと思う。(60代・女性)
- 男女共同参画社会づくりは男女平等の立場で女性も社会に貢献することだが、女性の大半は自分の都合のいいときだけ権利を主張する人が多いと思う。これからの若い世代の人たちも、どんどん会議などへ出席してもらい、趣旨を十分理解してもらおうようすべきである。それにはまず、企業（雇用者）等へ会議に出席できるよう働きかけることだと思う。(70歳以上・女性)
- 「男女共同参画社会」という言葉そのものが嫌い。(30代・女性)
- 家庭でも職場でも、男だから・女だからと差別することなく、お互いに対話しあい、助け合いながら生活できる世の中になってほしいです。(60代・女性)
- 男女共同参画社会は一見基本的な単純なことのように見えるが、実際はこれまでの慣習・社会情勢・個々人の意識など、多くの複雑な問題によって難しくされていると思う。行政の働きかけや啓蒙は必要不可欠だとは思いますが、やはりまず一人ひとりの考え方・意識のもち方の改革が必要だと思う。そのためには学校での教育・行政による指針も大切であるが、各家庭での教育・話し合いも重要である。みんなが問題意識を持ち、互いを思いやることにより、男女間だけではなく、あらゆる社会的問題を解決に導くことができるのではないだろうか。(30代・女性)

- めまぐるしく変わる現代社会において、まず個性を生かした社会に通用する技術（職業）を身につける必要があると思う。そうすることで男性も女性も自分を主張し、責任ある行動をとることができると思う。そして行政は男女共同参画の推進条例の制定をはじめ、審議会等、女性の行政への参画を推し進めるよう努めるべきである。そうすることで女性も安心して社会に溶け込み、見通しの良い社会の構築へ一歩踏み出すことができると思う。（70歳以上・女性）
- 平等というが、女性は男女平等といえはなんとでもなると考えている方が増えている気がする。女性は男女平等にしたいのではなく、女性のほうが強い社会を作ろうとしているだけなのでは？（20代・男性）
- 社会参加意欲のない女性が多いのではないかと思う。意欲を増進させるような具体的な活動内容や意味を形に示すことが良いのではないかと思う。男女の役割分担意識を改め、職場や家庭内において共同参画を自らの意思によって行えるような意識改革が必要ではないか。（20代・女性）
- 子どもの頃から教育すべき。男女共同参画社会とあるが、それを望まない女性も少なくない。女性専用車両自体が男女平等ではないが、ちかんと間違われると大変なのでいいと思う。しかし付加価値がついているのなら、利用者は対価を支払うべき。（30代・男性）

茂原市の行政

- 教育委員会や児童家庭課、福祉課などは女性職員を増やして、働く女性の声や意見を汲み取りやすくしてほしい。役職に就く人もほとんどが男性のような気がする。（30代・女性）
- 男女共同参画社会づくりに税金を使うより、税金を使わないことを考えてほしい。（40代・女性）
- 「男女共同参画社会」などと難しい言葉よりもまず、市役所の中で男女平等ですか？（50代・女性）
- 行政が男女平等にこだわりすぎだ。自然に社会慣習にまかせるべき。他にやることがいっぱいある。この問題も大切だが、二の次だ。予算を有効に使ってほしい。（50代・男性）
- 女性の経済的自立が進まなければ主従関係が固定化され、男性優位社会やDVは改善されない。茂原市が真に男女共同参画社会を目指し、魅力ある市にしたいのであれば、女性の自立を支える施策（休日保育、夜間保育、学童保育の時間延長や企業への働きかけ等）を他市町村に先んじて行う事が重要ではないか。（40代・男性）
- 男女差別意識を市民に問う前に、市役所の職員全員の市民を見下す意識を改めたほうが良いと思う。選挙管理委員会など、市の関係部署から市民宛に配布される文章を見ると男女差別と思われる表現がされている。（70歳以上・男性）
- 男女共同参画社会づくりは、茂原市だけで考えても限界があると思う。男女共同参画社会づくりについて考えるよりも、もっと大事なことがあるような気がする。茂原市の借金をなくすにはどうしたらよいか、税収を増やすには、人口を増やすには…（40代・男性）

- 茂原市としてまず取り組むべきことは、財政改善および強化による財務体制の建て直しである。企業誘致、学校・医療施設の建設・誘致策を積極的に行い、人口増加、特に若者人口の増加を推進すべきである。魅力ある市づくり、地域づくりこそ財政立て直しの鍵である。その策の一つとして男女共同参画のもとに女性が働きやすく結婚・子育てしやすいまちづくりも含まれる。(50代・男性)
- まだまだ男性社会の世の中だと思います。これからはもっと女性のリーダーを育成し、男女共同参画社会づくりをしていただきたいと思います。茂原市が住みよい社会になりますように願っております。(50代・女性)
- 市議会議員の男女比は、極端に男性が多く、かつ高齢者が多すぎます。このような状況下で男女共同参画社会づくりが果たして進ちょくするのか疑問に感じます。(60代・男性)

男女の根本的な違いと役割分担

- 男と女では体のつくりから違う。その違いを男性が補いながら平等に近い社会が作られていくと思います。(40代・男性)
- 元来、男女は全てに平等という考えには無理があると思っています。社会の中でもどう背伸びをしても女性には不可能ということがあり、また反対のことがあります。(年齢不明・女性)
- 男と女はお互いに分担する役割があるので、同じように同じことをできるわけが無いと思います。例えば、家庭のある(子どものいる)女性は遅くまで職場にいられないし、休日出勤もできません。私は男女共同参画には反対です。女性の地位向上などということ自体が偏見です。(50代・女性)
- 男性と女性は、子どもを産むと言うことが一番大きな違いである。市町村または国が女性・男性は25歳までに結婚して子どもをつくり、45歳くらいになったら社会に進出できるような仕組みにすればよい。子どもが少なくなってきたのに、男女平等であるために人口が減少してしまうのではないか。(50代・男性)
- 本来生まれ持った、女性は女性としての役割、男性は男性としての役割があるわけであり、女性は女性らしく、男性は男性らしくを基本とした学校教育をしてほしい。ただ中には女性でも男性的、男性でも女性的な方もいるので、職などでも偏見や差別する事のないような社会づくり、基本を忘れることなく住みやすい男女平等な社会づくりをしてほしい。(40代・女性)
- 一番小さい単位の家である家庭においても男女は平等ではない。できる人はできる事をすればよい。男性でも家事が得意であればOK、女性でも外で働く事が自由にできて家人の理解があればOK。あまり男性・女性として深く考えるのではなく、個人的に何ができるのかを理解して生活をしていきたい。(40代・女性)
- 男と女は異なるものであるので全くの平等ということはありません。そのことを理解した上で、男と女の役割を見直していくべき。特に女性の役割は軽く見られている面が多いと思う。(20代・男性)
- 男女がそれぞれ役割を理解し、まずそれを果たし、お互いに感謝して尊重・尊敬するという個々の意識が必要。自尊心を育て、教える教育が必要である(30代・女性)

- いつの時代でも男性の役目、女性の役目があり、男女平等はありえない。お互いに尊重し合うべき (60代・女性)
- 日本は先進国の中でも女性に対して保守的な考えが根強い。女性は就職できても結婚、出産、育児、家事一般、あるいは親の介護とやるべきことが多すぎる。その負担を軽減してこそ、男性と同じスタートラインに立つことができるのではないか。(50代・女性)
- 男女平等と言うが、生まれながらにして男性と女性の特質は違うと思う。(特に身体的な面)それを十分にふまえた上で、男性・女性が共に思いやり、協力できる社会づくりをしていく必要がある。(50代・女性)
- すべて男女平等が良い世の中になるとは思わない。それぞれの分野で自分が満足のいく生活が営まれてこそ幸せではないか。男性参加の料理教室や家事教室の場をもっと増やしてほしい。(60代・女性)
- まだまだ男性中心の社会だと思う。男はこうあるべき、女はこうあるべきだという観点から、お互いが抜け出さないと変わることは難しいと思う。男女関係なく、得意分野のことをすることができる環境があれば変わっていくきっかけになると思う。(40代・女性)
- 今でも昔に比べて十分女性は優遇されていると思う。あとは夫婦間で家庭の仕事量の割合を話し合えばよい。(50代・男性)
- 男女に関係なく、やる者はやる。やりたい人がやれる環境作りをすればよい。(30代・男性)
- 男性、女性の体の構造も違うし、互いに良い所をアピールし、互いに無いものをカバーし合うことも大切。女性は社会に対して甘く考えていると思う。(60代・女性)
- 人間はすべて基本的には平等であるということをふまえて、学歴や職業の違いで人の良し悪しを判断しがちなこれまでの社会を見る目を変えていくことが男女共同参画社会のスタートラインに立つことだと思う。女性には女性の目で見たと考えと特性を發揮できる場所を与えたら力を出せるのだと思う。(70歳以上・男性)
- 男女平等はとても良いとは思いますが、平等でなくてはいけないのでしょうか。自分の得意なところで力を発揮すれば良いのではないのでしょうか。そのようなところで協力してはどうかと思います。平等だからと不得意なことをしても長続きはしません。(50代・女性)
- 男にしかできないこと、女にしかできないことがあるので、協力していけばいい。特に女だから、男だからと強調する必要はないと思う。(50代・男性)
- 男女があらゆる分野において平等というのは、日本の風土からしてありえない。男女の違い、基本的な役割、体質等を考慮し、どの程度が平等なのかという基準を作り、それに沿って各人、各夫婦等、それぞれが確認しあって平等性を決めたらどうか。行政が求める男女平等の基準がよくわからない。(60代・男性)
- 男女が全く平等であってほしいとは思いません。男性しかできないこと、女性しかできないことがあってもいいし、またそれがあってこそ人類の調和が取れていくのではないかと思います。(40代・女性)

「男らしさ」「女らしさ」よりも「人間らしさ」を

- 男女平等といっても、男性には男性の、女性には女性の、それぞれの持つ「らしさ」を忘れてはいけないと思います。お互い人間として尊重し合えるような教育環境・社会環境の中で「人を愛する」心を大切にしていきたいと思います。(50代・女性)
- 男女平等という言葉自体が平等でないことを示しているような気がする。性別を問わず、人としてどうあるべきか、家庭・社会・地域等で個人の持つ能力をどこでどう示すべきか考える必要があると思う。「人間平等」と広い意味でとらえてほしい。(50代・女性)
- 男性にしかできないこと、女性にしかできないことを理解しなければ大変なことになる。お互いが理解してこそ男女共同である。性同一性障害などがあることを理解しなければならぬのであって、人間としての社会づくり・地域づくりが重要である。政治と地域社会の考えの差が大きいと感じる。(40代・男性)
- 「男女共同参画社会づくり」の根源は唯一つ、人としての「心」の持ちよう一つで全てが解決すると思う。(60代・女性)
- 男女問わず一人ひとりが社会の一員である自覚を持つため、活動を身近な自治会や七夕まつりのイベント、ボランティアなど若い青少年の参加を求め、参加しやすいシステムを作っていくべき。男性・女性というよりも人間性を重んじれば、道徳・倫理が学校教育に必要だと思う。その前に家庭教育が重要。(50代・女性)
- ここ数年、特に若年層の意識、言動のレベルが低下しているので秩序を重んじる教育を大事にして行かなければ共同参画等々はあまり浸透が望めないのではと思います。(50代・男性)

茂原市男女共同参画計画

- 男女共同参画社会づくりという観点から現状を考えると、いろいろの法整備もなされてきており、やろうと思えば実現可能な社会になってきているような感じがする。必要以上の推進は逆効果にならないか危惧する。(60代・男性)
- 計画は立てているようだが、それがきちんと先に進めるように行っていただきたい。見合わせるような事にならないように、市民が納得いくように期待している。がっかりさせないで。(30代・女性)
- 若い世代の人たちが茂原市に住んでよかったと思えるように、何十年か先を見据えて計画をしてください。(60代・男性)
- 男も女も平等な立場で、性別に関係なく身体的な障害や介護等の問題を含め、障害を取り払うような条例の施行をお願いしたい。(30代・男性)
- 男女共同参画計画に反対します。1日も早く排除するよう要望します。(60代・男性)
- 家庭内暴力がなぜ起こるか。周りの被害者に対する軽視と子ども軽視が目立つ。男女平等、幼児でも人格の尊厳がなくてはならないのに、市の対応も甘い。男女共同参画社会づくりを構築していくには、男女はもとより子どもから老人に至るまで人間の尊厳を分かち合い、風土に合ったプランニングを実現してほしい。(60代・男性)

男女共同参画社会づくりに関する広報・周知

- 男女共同参画社会に対して関心が薄かったので、今後いろいろな面において関心を強く持とうと思う。(60代・男性)
- 今までこの様な事に興味を持ったことがなかった。改めて茂原市で行われている地域活動や男女共同参画社会づくりというものに関心を持った。ぜひ実行・成功させてほしい企画である。(30代・男性)
- 男女共同参画社会づくりの意味・役割を知らない人が多いと思います。講習会などで皆さんに知ってもらったほうがいい意見が出ると思います。(50代・女性)
- 茂原市が「男女共同参画計画」を16年から実施していたことなどまったく知らなかった。今まではあまり期待していなかったが、これからは少しずつでも茂原市が変わっていくことを願っている。(50代・女性)
- 「男女共同参画社会づくり」について、もう少し分かりやすく説明・解説が必要だと思います。(20代・女性)
- 男女共同参画計画が平成16年度から施行されていると聞いたが、どんな変化が見られたかわからない。(70歳以上・男性)
- アンケートに答える上で、茂原市として取り組んでいる「男女共同参画社会づくり」についての具体的な内容を載せていただくとわかりやすかったように思う。私だけ知らないのかもしれないが、どのような施策が行われているか分からない上でアンケートに答えるのも難しいところがあった。(40代・女性)
- 「男女共同参画計画」という漢字を読んでもぱっと理解ができない。(20代・女性)
- このアンケートをもらうまで男女共同参画計画を知らなかった。市民の中へ浸透させる手段が足りなかったのではないか。話し合う機会を多く作ることを希望します(60代・女性)
- もっと情報提供し、知る事が第一歩。(20代・女性)
- 茂原市の男女共同参画計画がわからない(50代・女性)
- 私のような素人にも分かりやすい説明をお願いしたい。また、わかりやすいパンフレットの作成を要望したい(60代・女性)
- 男女共同参画社会づくりに関する法律・条例などをPRしてほしい(60代・男性)
- 男女共同参画社会づくりに関して関心がありませんでした(60代・男性)
- 計画策定から4年経過、今回見直しをするための意識調査ということだが、前回の計画の内容がわからなかった。テーマを定めて市政報告会などを計画してほしい。(60代・女性)
- 「茂原市男女共同参画計画」があることを初めて知った。周りの人も誰も知らない。啓蒙することが必要。(60代・女性)
- 「茂原市男女共同参画計画」とは、具体的にどのような施策か。市民に意義や目標をきちんと伝えたか。(60代・女性)
- 男女共同参画社会というものはどういうものなのか、意識・理解が低いように思う。もっと市民のみなさんに分かってもらえるような機会を作っていく必要があるように思う。(60代・女性)

- 男女共同参画社会づくりに関してまだ社会全体の認識は高いとはいえないので、広報紙等を使って特集を組み認識を広めるべきである。(30代・男性)
- 「男女共同参画計画」があったなんて初めて知った。(40代・女性)
- 「茂原市男女共同参画計画」を今回初めて知りました。もっと市民のみんなにわかるようにしていただければ、もっと感心を持つ事ができると思う。(60代・女性)
- 市のPRが足りない(60代・男性)
- アンケートを頂くまで男女共同参画計画について知りませんでした。市でこのような計画がある事を知らない人が多いと思う。もっと市民にアピールする必要がある。(50代・女性)
- 男女共同参画社会づくりについて、自分も含め全体的に関心が薄い。関心を高める活動を希望。アンケート結果について、パソコンがないので市の広報等で知らせてほしい。(70歳以上・女性)

男女共同参画社会づくりに向けての意識調査

- 男女共同参画社会づくりに向けての意識調査を実施すること自体が素晴らしいことだと思います。一人ひとりが茂原市政について感心を持ち、良くしていこうという意識づくりがとても大切だと思うからです。(30代・女性)
- アンケートを無駄にせず、理解を得るには長い時間がかかると思います。安心して住める環境づくりに協力しますので、担当課も頑張れ！(50代・男性)
- この調査結果を公表するとともに、今後の意識高揚のため定期的に同様な調査を継続すべきである。(50代・男性)
- 市民が何を望んでいるのかを本当によく理解して検討してください。(40代・男性)
- 調査で終わることなく、何らかの市民に分かる形で行動を起こす必要があると思う。(50代・男性)
- この資料が無駄にならないよう、企画倒れにならないようお願いします(40代・男性)
- 無関心だったが、これを機会に勉強したい。1日も早く実現できるよう市の取り組みに期待する。(50代・女性)
- このようなアンケートをする意味がわからない。無作為に選んだ中でまともな事を書いて返信する方が何人いるのだろうか。質問にも簡単で意味もなさそうなものと、質問も答えも専門用語が多く理解に苦しむものがあった。何度か読み返したものがあつた。社会づくりに興味があり、熱心な活動をされている方から意見をもらったり、PTA活動、地域活動をされている方を選んで「生の声」を聞いたりするほうがよいのではないか。(40代・女性)
- 何かの取り組みを始めると必ず新たな組織や出先機関、人員等々の増加を行うのが行政の常ですが、今回は既存の組織、人員を有効活用して新たな組織や機関等は絶対に作らないことと、人員の増加をしないことを強く要望します。このアンケートも少々無駄遣いだと思います。(70歳以上・男性)
- 多方面から意見を聴いていただきたい。名ばかりの行動にはしてほしくない。(20代・女性)

- この意識調査を作成した中に、何名の女性がいたのか。責任者は中年の男性ではないか。文章・選択肢の中に男性優位の感覚を感じる。(40代・男性)
- カタカナ語の多用は良くない。日本語で書いてもらいたい(60代・男性)
- アンケートや意見を聞いても実際に実行されて改善されることが少ない。(年齢不明・性別不明)
- 自分にとって今回のアンケートが身近な問題ではなく、答えるのが難しい。アンケートを行う事はいいことだが、選択肢等が未熟のような気がする。アンケートだけではなく、現場の意見をボトムアップで伝えられるシステムがあったほうがよい。(20代・男性)
- 茂原市が男女共同参画計画をやっている事を初めて知った。設問が「女性が差別されている」という前提である。男性が悪く、女性が被害者という設定ととれる。問題は個人のエゴが多すぎることである。(60代・男性)

子育て・教育

- 男性に子育てをしてもらうように推進して行ってほしいです。家族を知らないで育ててしまう子どもがいると大変なことになると思います。(30代・女性)
- 子ども会の運営等を見ても、時間がない、共働きで参加の機会がない等の理由で、活動が低調なだけでなく存続すら危なくなっている。問題解決の為には、男性がもっと主婦に積極的に協力していけるような施策づくりを考えることが必要。(70歳以上・男性)
- 若い人、仕事がある人は時間がありません。社会的・経済的な仕組みを変えてください。子ども一人を育てるのにお金が大変で少子化になるのも当然。子どもを増やす、社会に参加、仕事、家庭が全部個人の負担になる。こんなことはできません。(40代・男性)
- 男は男であり、女は女であるという性差を認めた上で平等教育をしてほしい(50代・女性)
- 男、女とも1人の人間としてどう生きていくのか。男だから女だからでなく、何のためという生き方を家庭で、地域で教育していけたらよい。(60代・女性)
- 小学生から憲法を理解させる教育を充実させたほうがよい(40代・男性)
- 保育所・学童保育などを行政主導で充実させていただきたい(50代・男性)
- 子どもの時の家庭のしつけから学校教育まで一貫して男女平等教育を実践していくことにより、子どもの将来に明るい社会が見える予感がします。(50代・女性)
- 男女共同参画社会づくりに際して、改正が「改悪」にならないよう慎重に検討してほしい。男女同権であるのに、このようなことが取り上げられるという事は、根本的な社会の在り方が一因である。これらの障りを変えるには社会全体として、平等心の育成が行われる様な社会となるよう、家庭教育・学校教育が行われるようになるとよい。(20代・男性)
- 私は子育てが終わりましたが、子育て中は保育所などの体制がもう少し充実して欲しかったと思います。(40代・女性)
- 新しい制度は順応できるよう子育ての時期から実行してほしい(70歳以上・女性)

- 女性の社会進出もいいけれど、仕事より子育てを優先させた方が良い。(60代・女性)
- 子どもを人任せで仕事をしたい人が増えている。子どもを親の手・親の目で育てることが、一番の仕事。男女共同参画社会づくりを考える前に、親の子育てを考えるべき。親の育て方が必要。(50代・女性)
- 子育ての時期はゆっくり時間をかけて育ててほしい。そのためには仕事を休職することを社会的に認めるべき。以後は保育所や放課後の児童クラブを充実すべきで女性の働きやすい環境を整えてほしい(60代・女性)
- 学校教育に全てができるわけがないので、家庭円満・夫婦のコミュニケーションの有り方が全ての基本。父親と母親が仲良くお互いをいたわり感謝しながら生活する日常こそが子どもに不安を抱かせることなく、真の意味での男女平等につながるのではないか。(50代・女性)

労働

- 私自身1歳の子を持つ現在育児休暇中の者です。復帰にあたり、保育所のこと、会社のこと、さまざまなことに悩み、今でも不安は尽きません。職場は子を持ち仕事をすることへの理解がありません。これが現実なのだと、今では未来にさほど希望もありませんし、子どもの将来が不安です。せめて茂原市で安心して子育てできるように、そのためには女性が安心して働くことのできるまちづくりを目指してほしいです。(20代・女性)
- 女性は出産などで社会人として一番成長する時期(20代~30代)に仕事を辞めるまたは休職する必要があり、制度で補えるものではないと考える。給与などは制度で補うことが可能かもしれないが、20~30代に数年仕事ができない状況を補うことは難しい。ただし、出産・育児は人間の営みとして非常に重要なことであるにもかかわらず、実際には子どもを持たないこと、独身であることが経済的に有利となっている。この矛盾は正すことが必要である。(40代・男性)
- かなり高学歴な女性でも「女性であることは就業を含めて社会的に不利」と思わせる社会背景があると思います。(50代・男性)
- 求人募集で「男性優遇」「女性優遇」という表現は、やや差別的な感じがする(20代・女性)
- 同一価値労働・同一賃金を実現させ、正社員・非正規社員を平等にすること。男女の賃金格差をなくすこと。社会保障を充実させること。性差別の意識を解消すること。誰もがゆとりと思いやりを持てるような経済・社会情勢を作り上げること。(40代・男性)
- 出産・子育てなど、もっと女性が安心して働ける職場の環境づくりに力を入れてもらいたい。(30代・女性)
- 女性は子育てで一度仕事から離れてしまうと再就職はしづらい。収入の面で、男性ほどの収入を得る事は難しい。子どもがいては残業・夜勤もできない。(年齢不明・性別不明)
- 役所や会社、団体等で組織の上位にいる人たちは、女性の発掘にもっと目を向けるべきである。(70歳以上・男性)

- 保育の仕事をしていますが、育児休暇・産休など制度が不十分なので、結婚や出産で辞めていく先輩が多いです。働きやすい職場と十分な休暇などをこれから充実していくとよいと思います。(20代・女性)
- 男性は職場で女性を下に見ているので、女性が使える制度等を利用しようとすると、生意気だとか仕事を軽く見ているだとかいろいろ文句を言われて、利用しづらい。そういう古い考え方の男がいなくなる限り、いくら良い制度ができて、女性が男性と同じ立場で平等に扱ってもらえるとは思わない。(30代・女性)
- 子育ての時期に、女性は社会に出るよりまず子どもの面倒を見るようにと周りから言われた。もっと気軽に子どもを預けるところがあれば、もう少し早く仕事に就くことができるのに。女性も学校にいる時から組織活動やリーダーになる訓練をしていったほうがよいと思います。(40代・女性)
- 男女雇用機会均等法により女性の残業や深夜勤務ができるようになったが、言い換えれば会社に命令されれば拒否できないということになる。男女があらゆる場面でまったく平等というのはいかなるものか。(40代・男性)
- 男女共同参画社会づくりについては、まずはゆとりある生活でしょう。男女問わず雇用問題だと思います。(70歳以上・男性)
- 女性が安心して働ける環境を確保していただきたい(60代・男性)
- 女性の働く機会を増やすための制度を充実してほしい(50代・女性)
- 女性が社会で活躍できるような枠組みづくりを一層充実してほしいと思います。また、職場での地位向上(例：管理職の登用)や出産・育児への支援(特に育児休暇後のスムーズな職場復帰や男性の育児休暇取得など)、また男性が女性の地位向上に積極的に関与することを望みます。(20代・男性)
- 主婦業も労働だという考え方がもっと理解されるべきだと思う。(30代・男性)
- 求人募集の年齢制限をなくして欲しい。時給最低賃金を守ってほしい。(50代・女性)
- 結婚するまでは男も女も関係なくキャリアウーマンとして働くことができましたが、結婚・育児と負担が増えるにつれて共働きの難しさにぶつかりました。働く条件もよく、育児や家事をお願いできる親族が身近にいるなどの環境があってこそ両立できるものです。育児もある程度充実した時には、社会にも貢献できると思います。雇用についても年齢や幼い子どもがいるなどの条件では新規採用や再就職が難しく、なかなかいい場所がありません。女性がもっと充実して働けるような環境にしてください。(40代・女性)

少子高齢社会

- 我々高齢者が「男女共同参画づくり」にどう取り組めばいいのか具体的な策を示してもらいたい。(70歳以上・男性)
- 子どもを授かることを望んでいても授かりにくい人もいます。結婚したカップルの10組に1組は不妊で悩んでいる。不妊治療には健康保険が適用されず、高額な治療費がかかるので、経済的にも精神・身体的にも大きな負担を強いられている。少子化を危惧しているのなら、不妊医療にも健康保険が適用されるように制度を見直してもらいたい。(20代・女性)

- 市で独身者の結婚相談の窓口があることが広報に載っていましたが、知らない人も多い。男女共同参画社会づくりを通して、男女の出会いの場を設け、何組かの幸せなカップルが誕生することを願っています。少子高齢化に歯止めをかけるために必要なことだと思います。(60代・男性)
- 女性が用事のあるときに子どもや老人を気軽に預けられる施設を確保してほしいです(60代・女性)
- 育児や介護のサポートがあれば、女性はもっと社会に貢献できると思う。(40代・女性)
- 私の近所では学校に通う子どもがおりません。子どもの姿が昔に比べて少なくなって寂しいです。「子は宝」ということがどんなに大切なことかと思います。(70歳以上・女性)
- 外国から介護福祉士に来てもらう一方、日本の介護福祉士の有資格者20万人が現在活動していないという現状がある。外国から人を呼ぶ前に、なぜこのような人たちに職に就いてもらわないのか不思議で仕方ない。救急医療や医師不足等、子育てや介護を担っている女性にとって密接に関わることなので、男女共同参画社会づくりにもっと多くの女性が参加してよい社会づくりをしていくことが必要だと思う。(60代・女性)
- 現在、親の介護が中心の生活をしています。たくさんの人々の介護をしてきたので自分なりの理想がありますが、なかなか思い通りになりません。何かいい方法がないかと悩む毎日です。あらゆる悩みに相談できる窓口があるといいですね。(50代・女性)
- 子育てや介護の問題はまず家庭が中心となって責任を持つことが第一だが、仕事と家庭の両立をもっと応援してくれる仕組みがもっと必要。(40代・女性)
- 市民の皆さんの生活の安定が基本であり、自分たちの住んでいる近くに老人施設があれば、高齢者が集まり、いろいろな話題があり、相互扶助の環境づくりに変化が生じて家族も安心して働くことができるのではないかと。(60代・男性)
- 出産にとってもお金がかかること、出産への金銭的な社会支援がとても薄いことを最近知ってとても驚きました。多くの妊婦さんは若者です。出産するのにそんなにお金がかかるのでは、産むことをためらうと思います。このような支援は市単位ではできないかもしれませんが、支援制度の整備を望みます。(20代・女性)
- 子どもを生み、母乳をあげることは女性にしかできないことであり、社会を作っていくことの基礎なので、安心して子どもを産める環境を整えることが大切である。子育てや介護は女性でなくてもできることなので、男女が協力していくことが望ましい。(30代・女性)

4 参考資料(調査票)

茂原市男女共同参画社会づくりに向けての意識調査

日頃より、市政にご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。

茂原市では、男女が互いにその人権を尊重し、責任を分かち合い、性別に関わりなくその個性と能力を発揮することができる男女共同参画社会の実現を目指して、平成16年3月に「茂原市男女共同参画計画」を策定し、さまざまな施策を展開してまいりました。



この計画は平成16年度から平成22年度までの7年間を計画期間としており、社会情勢やニーズの変化に応じて見直しを行うこととされています。

計画策定から4年余が経過し、少子高齢化・高度情報化・国際化など社会環境が大きく変動する中で、男女共同参画社会づくりに関する市民の皆さんの意識の変化をとらえ、市民生活を送る上で直面している新たな問題に対処するため、市では「茂原市男女共同参画計画」の見直しを進めています。

このたび計画の見直しにあたり、市民の皆さんの男女共同参画社会づくりに関するご意見を伺い、市が今後取り組むべき施策の基礎資料とするため、調査を実施させていただくことになりました。

調査の対象として、市内にお住まいの20歳以上の男女3,000人を住民基本台帳から無作為に選ばせていただきました。調査結果については全て統計的に処理を行い、回答いただいた内容は調査目的以外には使用されません。お忙しいところ誠に恐縮ですが、本調査の趣旨をご理解いただき、御協力いただけますようお願い申し上げます。

平成20年8月

茂原市長 田中 豊彦

ご記入にあたってのお願い

1. あて名のご本人がお答えください。
2. 住所・氏名を記入する必要はありません。
3. 回答は、この用紙に直接記入し、当てはまる回答の番号に○をつけてください。回答の中で「その他」を選んだ方は、その内容を()の中にご記入ください。筆記用具は鉛筆・ボールペンなど何でもかまいませんが、はっきりわかりやすく書いてください。

A.あなたの性別は、

(回答例)

1 男

② 女

4. 質問によっては、当てはまる方のみお答えいただくものもありますが、説明に従って最後までお進みください。
5. 全ての記入が終わりましたら、折りたたんで同封の返信用封筒に入れ(切手不要)、

8月31日(日)までに ポストに投函してください。

6. この調査についてのお問い合わせは、下記までお願いします。
〒297-8511 茂原市道表1番地 茂原市企画財政部企画政策課
TEL20-1516、FAX20-1603、Eメール kikaku@city.mobara.chiba.jp

【はじめに、あなたご自身のことについてお伺いします】

A.あなたの性別は、

1 男	2 女
-----	-----

B.あなたの年齢は、

1 20～29 歳	4 50～59 歳
2 30～39 歳	5 60～69 歳
3 40～49 歳	6 70 歳以上

C.あなたのお住まいは、

1 茂原地区（既成市街地） [茂原、茂原西、高師、高師町、高師台、萩原町、千代田町、八千代、道表、東部台、小林飛地、中部、町保]
2 茂原地区（その他） [上林、鷺巣、上茂原、箕輪、長谷、内長谷、墨田、早野新田、東茂原、大芝]
3 東郷地区 [千町、六ツ野、木崎、谷本、本小轡、小轡、新小轡、七渡、東郷、中之郷飛地、川島飛地]
4 豊田地区 [長尾、大登、小林、渋谷、腰当、北塚]
5 二宮地区 [国府関、真名、山崎、押日（緑園台含む）、黒戸、庄吉、芦網]
6 鶴枝地区 [上永吉、下永吉、猿袋、三ヶ谷、立木、台田、野牛、中の島町]
7 五郷地区 [早野、綱島、中善寺、石神、八幡原、六田台、緑町、長清水]
8 本納地区 [本納、法目、高田、榎神房、西野、小萱場]
9 新治地区 [下太田、上太田、大沢、柴名、桂、吉井上、吉井下]
10 豊岡地区 [萱場、弓渡、粟生野、御蔵芝、清水、千沢、南吉田]
11 緑ヶ丘地区 [緑ヶ丘]

D.あなたのご職業は、

1 農林漁業	5 会社員	9 無職
2 商工業・サービス業	6 公務員・団体職員	10 パート・アルバイト・派遣 など臨時的な仕事
3 医師・弁護士など	7 専業主婦・主夫	
4 その他自営業	8 学生	11 その他 ()

E.あなたの世帯は、

1 ひとり暮らし	4 親と子ども夫婦 (二世世代家族)
2 夫婦のみ (一世世代家族)	5 親と子ども夫婦と孫 (三世世代家族)
3 親と未婚の子ども (核家族)	6 その他 ()

F.あなたは、結婚していますか？

1 結婚している (パートナーと暮らしている場合も含む)	→F-1.へお進みください 次ページ 問 1.へお進みください
2 死別・離別	
3 結婚していない	

F-1.あなたとあなたの配偶者・パートナーの職業 (※) は、

1 夫婦 (男女) 共働き
2 夫 (男性) だけ働いている
3 妻 (女性) だけ働いている
4 夫婦 (男女) とも働いていない

※ 職業にはパート・アルバイト・派遣等を含む

次ページ 問 1.へお進みください

【男女平等意識について】

問 1.現在、次のような面で男女の地位が平等になっていると思いますか。それともそう思いませんか。
(○はそれぞれ1つずつ)

	男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	わからない
(ア) 家庭の中で	1	2	3	4	5	6
(イ) 職場の中で	1	2	3	4	5	6
(ウ) 学校教育の場で	1	2	3	4	5	6
(エ) 地域活動の場で	1	2	3	4	5	6
(オ) 法律や制度の上で	1	2	3	4	5	6
(カ) 社会通念・慣習で	1	2	3	4	5	6
(キ) 政治や政策決定の場で	1	2	3	4	5	6
(ク) 全体として	1	2	3	4	5	6

問 2.次の言葉を知っていますか。(○はそれぞれ1つずつ)

項 目	よく知っている	聞いたことはある	知らない
(ア) 男女雇用機会均等法	1	2	3
(イ) 男女共同参画社会基本法	1	2	3
(ウ) 女子差別撤廃条約	1	2	3
(エ) ジェンダー (社会的・文化的につくられた性別)	1	2	3
(オ) リプロダクティブ・ヘルス/ライツ (性と生殖に関する健康と権利)	1	2	3
(カ) セクハラ (セクシュアル・ハラスメント)	1	2	3
(キ) DV (ドメスティック・バイオレンス)	1	2	3
(ク) エンパワーメント (力をつけること)	1	2	3
(ケ) ポジティブ・アクション (積極的改善措置)	1	2	3
(コ) アンペイド・ワーク (家事・育児・介護・看護等の無償労働)	1	2	3
(サ) 女性専用車両	1	2	3
(シ) ワーク・ライフ・バランス (仕事と生活の調和)	1	2	3
(ス) 特定事業主行動計画	1	2	3
(セ) ダイバーシティ (多様性)	1	2	3
(ソ) 家族経営協定	1	2	3
(タ) デート DV	1	2	3

【男女の役割分担について】

問 3.「男は仕事、女は家庭」という考え方についてどう思いますか。(○は1つだけ)

1 そう思う	3 どちらともいえない
2 そう思わない	4 わからない

※次の**問 4.**は結婚（事実婚含む）し、同居している方のみお答えください。
それ以外の方は次ページの**問 5.**にお進みください。

問 4.あなたの家では、次に挙げる仕事等は、どなたの役割になっていますか。(○はそれぞれ1つずつ)

項 目	主に夫	主に妻	夫婦 同程度	その他の 人 (男性)	その他の 人 (女性)	該当 しない
(ア) 食事の支度	1	2	3	4	5	6
(イ) 食事の後片付け、食器洗い	1	2	3	4	5	6
(ウ) 日常の買い物	1	2	3	4	5	6
(エ) 掃除	1	2	3	4	5	6
(オ) 洗濯	1	2	3	4	5	6
(カ) ごみ出し	1	2	3	4	5	6
(キ) 大工仕事や電気製品の管理	1	2	3	4	5	6
(ク) 役所や銀行などへの用事	1	2	3	4	5	6
(ケ) 高齢者や病人の世話	1	2	3	4	5	6
(コ) 町内会や自治会の出席	1	2	3	4	5	6
(サ) 子どもの勉強やしつけ	1	2	3	4	5	6
(シ) 学校行事への参加	1	2	3	4	5	6
(ス) 家計の管理	1	2	3	4	5	6
(セ) 財産・資産の管理	1	2	3	4	5	6
(ソ) 家庭内での主導権	1	2	3	4	5	6

問 4-1.問 4.の (ア) ~ (ソ) までの仕事のうち自分が「もっと分担してもよい」と思うものを3つ選んでください。

記入欄			
-----	--	--	--

問 4-2.問 4.の (ア) ~ (ソ) までの仕事のうち配偶者・パートナーに「もっと分担してほしい」と思うものを3つ選んでください。

記入欄			
-----	--	--	--

【子育てと教育について】

問 5. これからの時代を生きていく子どもたちには、将来どのような生き方をしてほしいと思いますか。
(○は女の子・男の子それぞれ3つまで)

項 目	女の子	男の子
(ア) 社会的な地位を得る	1	1
(イ) 経済的に豊かな生活をする	2	2
(ウ) 社会に貢献する	3	3
(エ) 家庭や周りの人たちと円満に暮らす	4	4
(オ) 人間性豊かな生活をする	5	5
(カ) 本人の個性や才能を生かした生活をする	6	6
(キ) 本人の意思に任せる	7	7
(ク) その他 ()	8	8

問 6. 学校教育の中で男女平等の意識を深めるためには、何が大切だと思いますか。(○は3つまで)

1. 男女平等の観点に立って、性別にとらわれず、一人ひとりの個性を育むような授業をする
2. 生活指導や進路指導において、男女の差をなくす配慮をする
3. 男女共同参画に関する教員の意識を深める研修を行う
4. 相手へのいたわりや理解が増すような性教育を充実させる
5. 性差別や人種差別などに問題意識をもたせる
6. 国際交流や交換留学を活発にし、他国の事例や価値観を学ばせる
7. 今のままでよい
8. わからない
9. その他 ()

問 7. 女性が一生の間に産む子どもの数は2007年で1.34人となっています。あなたは、出生率が低い原因は何だと思いますか。(○は3つまで)

1. 子育てと仕事を両立させる社会的な仕組みが整っていない
2. 住宅事情や家計が厳しく、子育てに経費がかかりすぎる
3. 結婚しない人が増えた
4. 子どもよりも仕事や余暇等を充実したいと考える人が増えた
5. 女性の高学歴化や社会進出により結婚年齢が上昇した
6. 出産・子育てに対する夫の理解・協力が足りず妻の精神的・肉体的負担が大きい
7. 子どもは少なく産んで十分手をかけて育てたいという人が増えた
8. 樂をしたい・子育てが面倒で子どもを望まないという人が増えた
9. 祖父母や隣近所など、両親以外に子育てを支援してくれる人がいない
10. その他 ()

【高齢化社会について】

※次の問 8.は介護が必要な身内の方（要介護者）がいる方のみお答えください。
それ以外の方は問 9.にお進みください。

問 8.主に介護しているのは、要介護者から見てどの関係に当たる方ですか。（○は1つだけ）

- | | | |
|--------|----------|---------------|
| 1 配偶者 | 4 娘 | 7 地域の人・ボランティア |
| 2 息子 | 5 娘の夫 | 8 ホームヘルパー・家政婦 |
| 3 息子の妻 | 6 その他の親族 | 9 その他（ ） |

問 9.家庭で寝たきりになったお年寄りなどの介護は、女性（妻・嫁・娘など）が主たる担い手となることが多いですが、このことについてどう思いますか。（○は1つだけ）

- | |
|------------------------------------------|
| 1. 女性の役割として当然だと思う |
| 2. 問題があるが、現実にはやむを得ない |
| 3. 介護保険制度・ホームヘルパーを活用するなど、女性の負担を軽減するほうが良い |
| 4. その他（ ） |
| 5. わからない |

問 10.もしも将来あなたが寝たきりなどになったら、誰に介護してほしいですか。
（○は2つまで）

- | | | |
|--------|----------|---------------|
| 1 配偶者 | 4 娘 | 7 地域の人・ボランティア |
| 2 息子 | 5 娘の夫 | 8 ホームヘルパー |
| 3 息子の妻 | 6 その他の親族 | 9 その他（ ） |

【労働について】

問 11.女性の働き方について、望ましいと思うのは次のどれですか。(○は1つだけ)

1. 結婚や出産に関わらず、ずっと職業を持つ
2. 子育ての時期だけ一時的に仕事を辞め、その後はフルタイムで仕事を続ける
3. 子育ての時期だけ一時的に仕事を辞め、その後はパートタイムで仕事を続ける
4. 結婚するまで仕事を持ち、結婚後は仕事に就かない
5. 子どもができるまで仕事を持ち、その後は仕事に就かない
6. 仕事を持たない
7. その他 ()
8. わからない

問 12.女性が仕事を続ける上で障害になっているものは何だと思いますか。(当てはまるものすべてに○)

1. 女性の雇用機会や採用数が男性より少ないこと
2. 長く働き続けるような職場の条件や制度が不十分なこと
3. 結婚や出産、育児を支援する制度がなく、雇用主の理解が得られないこと
4. 保育施設や保育制度が不十分なこと
5. 家族の理解が得られないこと
6. 子どもや病人、高齢者の世話が女性だけに任せられていること
7. 仕事と家事が両立できないこと
8. その他 ()
9. 特にない
10. わからない

問 13.雇用の場への女性の進出が進む中で女性が働きやすい環境をつくるためには、特にどのようなことが必要だと思いますか(○は3つまで)

1. 再雇用制度の促進
2. 保育所の整備・充実、放課後児童クラブ(学童保育)の充実
3. 保育時間の延長
4. 産後休暇・育児休暇明け保育の充実
5. 育児休業制度の定着促進
6. 介護・看護との両立を支援する体制の整備
7. 昇進・昇給や仕事の分担など、労働の場での男女平等の推進
8. 男性の地域社会活動や家庭生活への参加促進
9. 家事の省力化・外部化などによる家事負担の軽減
10. その他 ()

【セクシュアル・ハラスメントについて】

※セクシュアル・ハラスメント(セクハラ)とは、相手の意に反した性的な性質の言動のことを言います。

問 14. これまでに、職場・学校・地域で次のような経験をしたことがありますか。

(○は職場、学校、地域ごとに当てはまるものすべて)

項 目	職場	学校	地域
(ア) いやがっているのに卑猥な話や猥談を聞かされた	1	2	3
(イ) 「女(男)のくせに」「女(男)だから」と差別的な言い方をされた	1	2	3
(ウ) 異性に身体を触られた・じろじろ見られた	1	2	3
(エ) 宴会でお酒やデュエットを強要された	1	2	3
(オ) 交際を強要された	1	2	3
(カ) 性的な行為を強要された	1	2	3
(キ) 性的な噂をたてられた	1	2	3
(ク) 結婚や出産の予定をたびたび聞かれた	1	2	3
(ケ) 容姿について繰り返し言われた	1	2	3
(コ) 帰宅途中、後をつけられた	1	2	3
(サ) 性的な内容の手紙や電話を受けた	1	2	3
(シ) ヌード写真や卑猥な雑誌を目に付くところに張られた・見せられた	1	2	3
(ス) その他 ()	1	2	3

問 15. あなたの職場・学校・地域には、セクシュアル・ハラスメントの相談を受け付ける窓口がありますか。(○は1つだけ)

1 ある	2 ない	3 わからない
------	------	---------

問 16. セクシュアル・ハラスメントが起こる原因は何だと思えますか。(○はそれぞれ1つずつ)

項 目	そう思う	そうは 思わない
(ア) 相手を対等なパートナーとして見ていないから	1	2
(イ) 性的言動を相手が不快に思うことがわかっていないから	1	2
(ウ) 固定的な性別役割分担意識にとらわれすぎているから	1	2
(エ) 日常的なコミュニケーションが不足しているから	1	2
(オ) 受ける側が毅然とした対応をしないから	1	2
(カ) 一部にモラルの低い人がいるから	1	2
(キ) その他 ()		

【ドメスティック・バイオレンス(DV)について】

※ドメスティック・バイオレンス(DV)とは、夫婦(別居・離婚後も含む)や恋人などの親密な関係にあるパートナーからの暴力のことを指します。

問 17.今までに、夫・妻・恋人などの親密な関係にあるパートナーから次のようなことを受けたことがありますか (○はそれぞれ1つずつ)

項 目	何度もあった	1、2回あった	まったくない
(ア) 何をやっても、何を言っても無視された	1	2	3
(イ) 大切にしているものをわざと壊された・捨てられた	1	2	3
(ウ) 馬鹿にされた・ののしられた・命令口調でものを言われた	1	2	3
(エ) 交友関係や電話・メールを細かく監視された	1	2	3
(オ) 拳や身体を傷つける可能性のあるもので殴るふりをして脅かされた	1	2	3
(カ) 平手で打たれた・蹴られた・噛まれた・拳で殴られた	1	2	3
(キ) 身体を傷つける可能性のあるもので叩かれた	1	2	3
(ク) 生活費を渡してくれない	1	2	3
(ケ) 望まない性行為を強要された	1	2	3
(コ) その他 ()	1	2	3

※次の**問 17-1.~17-3.**は、**問 17.**の (ア) ~ (コ) のいずれか1つ以上で **1 または 2** と答えた方のみお答えください。
それ以外の方は次ページの**問 18.**にお進みください。

問 17-1.これまでに、**問 17.**で挙げたような行為について、誰かに打ち明けたり相談したりしましたか。
(○は1つだけ)

1 相談した	2 相談したかったが、しなかった	} 次ページの 問 17-3. へ
	3 相談しようとは思わなかった	

問 17-2.実際に、誰に (どこに) 相談しましたか。(○は当てはまるものすべて)

1 親族	5 役所の相談窓口等
2 友人・知人	6 医師・カウンセラー等
3 同じような経験をした人	7 NPO、市民団体等
4 家庭裁判所・弁護士・警察等	8 その他 ()

【社会・地域参加について】

問 20. 次の地域活動の中で、「現在参加しているもの」、「今後参加したいもの」について、それぞれ選んでください。(○は当てはまるものすべて)

【現在参加している地域活動】	【今後参加したい地域活動】
1 スポーツ・サークル活動	1 スポーツ・サークル活動
2 奉仕活動、福祉活動	2 奉仕活動、福祉活動
3 文化、教養、学習活動	3 文化、教養、学習活動
4 自治会	4 自治会
5 婦人会	5 婦人会
6 長寿クラブ	6 長寿クラブ
7 子ども会活動	7 子ども会活動
8 消費者運動・住民運動	8 消費者運動・住民運動
9 PTA の役員	9 PTA の役員
10 政治活動	10 政治活動
11 その他 ()	11 その他 ()

問 21. これまで男性は、地域活動や家庭生活への参加が比較的少なかったと言われていています。地域活動や家庭生活への男性の参加を促進するためには、何が重要だと思いますか。(○は2つまで)

1. 地域活動や家庭生活への参加を促進するための啓発活動をする
2. 地域活動に関する情報提供を促進する
3. 労働時間を短くして余暇を増やす
4. 仕事と子育ての両立を支援する体制を整備する
5. 企業など職場における地域活動への理解を得やすい環境づくりを推進する
6. その他 ()
7. 特にない
8. わからない

問 22.自治会やPTAなどの活動では、女性の会長やリーダーが少ない傾向にあります。その原因は何だと思いますか。(○は2つまで)

1. 責任ある地位に就きたくないと考えている女性が多い
2. 家事・育児に忙しく、地域活動に専念できない女性が多い
3. 組織活動の経験が少ない女性が多い
4. 指導力のある女性が少ない
5. 女性がリーダーでは、女性がついてこない
6. 女性がリーダーでは、男性がついてこない
7. 女性がリーダーでは軽く見られる
8. 男性がリーダーとなるのが社会慣行である
9. その他 ()
10. わからない

問 23.政治や政策決定の場への女性の参画の機会が増えることによって、社会がどう変化することによって期待しますか。(○は2つまで)

1. 政治が身近になる
2. 男性中心の考え方に変化が生じる
3. 男女平等社会に向けて施策が推進される
4. 行政に対する要望がきめ細かくなる
5. その他 ()
6. 何も期待しない
7. わからない

問 24.茂原市では、審議会等の女性委員の登用率が平成18年度で20.0%となっています。このことについて、あなたはどのように思いますか。(○は1つだけ)

1. 現状でよい
2. 女性がもう少し増えたほうがよい
3. 男女半々ぐらいまで増えたほうがよい
4. 女性のほうが多い審議会があってもよい
5. 性別にこだわる必要はない
6. その他 ()
7. わからない

問 25.女性の社会参加を進め、男女があらゆる分野で平等な立場で協力しあっていくためには、どんなことが必要だと思いますか。(○は2つまで)

1. 女性に対する偏見や社会的なしきたり、慣習を改める
2. 女性が経済的に自立する
3. 職場・政治などの面を含め、女性が積極的に社会参加する
4. 男性の理解と協力を得る
5. 男女とも、社会の一員としての自覚と責任を持つ
6. 子どもの時の家庭でのしつけから学校教育まで、一貫して男女平等教育をする
7. 家事・育児が社会的に十分評価される
8. 男女平等のための法律・制度の改正や行政の施策を充実する
9. その他 ()
10. 特にない
11. わからない

【市への要望について】

問 26.男女共同参画社会を実現するために、茂原市にどのようなことを期待しますか (○は3つまで)

1. 学校教育での男女平等教育の推進
2. 男女平等、男女共同参画についての学級や講座の開催
3. 男女平等に関する情報提供や社会的機運の醸成
4. 男女共同参画を阻害する行為の根絶のための取り組み
5. 職場における男女格差の是正や女性の労働条件の改善
6. 育児・介護休業制度の普及促進
7. 職業訓練、職業相談の充実
8. 育児・保育事業の充実
9. 高齢者・障害者の介護制度の充実
10. 地域活動やボランティア活動の促進
11. 女性グループのリーダー養成
12. 審議会など女性の行政への参画促進
13. 男女共同参画推進を専門に担当する課の設置
14. 男女共同参画に関する苦情処理・相談機関の設置
15. 男女共同参画推進条例の制定
16. 男女共同参画都市の宣言
17. その他 ()
18. 特にない
19. わからない

5 用語解説

【あ行】

■アンペイド・ワーク（家事・育児・介護・看護等の無償労働）

家事や育児、介護、看護などの仕事や地域活動など、無償だが我々の生活に必要な労働。語源は「unpaid work」（無報酬の労働）。

■エンパワーメント（力をつけること）

個人や集団が自らの生活への統御感を獲得し、組織的、社会的、構造に外郭的な影響を与えるようになること。語源は「empowerment」（権限を与えること、能力・実力をつけること）。国連開発計画が導入した概念で、「女性の政治参加や経済における活躍、意思決定に参加できるかどうかを表す指数」として、「ジェンダー・エンパワーメント指数」（GEM=Gender Empowerment Measure）がある。

【か行】

■家族経営協定

家族経営が中心の我が国の農業において、家族一人ひとりの役割と責任を明確化し、意欲を持って取り組めるようにするため、農業経営を担っている家族の皆が話し合っ、経営の方針、労働報酬、休日・労働時間、経営移譲等について文書で取り決めるもの。

■合計特殊出生率

人口統計上の指標で、1人の女性が一生の間に産む子どもの数。一般的には出産可能な年齢を15歳から49歳とする「期間合計特殊出生率」を指す。死亡率が不変で、合計特殊出生率が高ければ将来の人口は自然増を示し、低ければ自然減を示す。

【さ行】

■ジェンダー（社会的・文化的につくられた性別）

先天的・身体的・生物学的性別を示すセックス（sex）に対する、「社会的・文化的な性のありよう」のこと。語源である「gender」は、英語圏で生物学的な性も社会的な性も指す単語として用いられるが、1950年代に一部の社会科学の分野において「gender」が社会的な性のありようを意味する言葉として用いられるようになった。

■女子差別撤廃条約

1979年（昭和54年）12月18日に国連で採択された多国間条約で、正式名称は「女子に対するあらゆる形態の差別の撤廃に関する条約」（Convention on the Elimination of All Forms of Discrimination against Women）。1981年（昭和56年）に発効し、日本は1985年6月25日に批准した。あらゆる分野における性差別を撤廃するために必要な措置を定めており、既存の法律、慣習等を修正または廃止することなどが定められている。

■女性専用車両

公共交通機関において、原則として女性だけが利用できるようになっている車両。2000年代に入り、車内での迷惑行為や痴漢行為が社会問題として大きく取り上げられるようになり、女性が安心して乗車できることを目的として導入された。

■セクハラ（セクシュアル・ハラスメント）

相手の意に反した性的な性質の言動で、身体への不必要な接触や性的関係の強要、性的な噂を流す、多くの人目の触れる場所へのわいせつな写真の掲示など、さまざまなものが含まれる。特に雇用の場においては、相手の意思に反した性的な言動を行うことで、仕事をする上で不利益を与えたり、就業環境を著しく悪化させたりすることがある。

【た行】

■ダイバーシティ（多様性）

構成員一人ひとりが持つさまざまな違い（性別・国籍・年齢・職歴など）を受け入れ、各自の個性を生かして能力を発揮でき、個人の価値を高めるとともに組織自体の価値を高めるという考え方。語源は「diversity」（多様性）。少子高齢化が進み十分な労働力が確保できない現代企業において、女性や高齢者、外国人など多様な労働力を活かし、多様な顧客ニーズに応えるための企業戦略として「ダイバーシティ・マネジメント」が注目されている。語源を同じくするものに、無線技術における「ダイバーシティ」（複数の電波を受信し、最も強い電波を選択または合成する技術）がある。

■男女共同参画社会基本法

男女が互いに人権を尊重しつつ、能力を十分に発揮できる「男女共同参画社会」の実現を目指して1999年（平成11年）に制定された法律。その2条において、「男女共同参画社会の形成」を「男女が社会の対等な構成員として、自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され、もって男女が均等に政治的、経済的、社会的及び文化的利益を享受することができ、かつ、共に責任を担うべき社会を形成すること」と定義している。

■男女雇用機会均等法

雇用の分野で男女の均等な機会や待遇の確保等を目的とする法律で、正式名称は「雇用の分野における男女の均等な機会および待遇の確保等に関する法律」。募集・採用から定年・退職・解雇に至るまでのすべての段階における女性の差別が禁止されている。

■特定事業主行動計画

急速に進行する少子化、家庭および地域を取り巻く環境の変化に対応するため、国および地方公共団体（特定事業主）が策定する行動計画。2003年（平成15年）に制定された「次世代育成支援対策推進法」において、特定事業主および300人を超える労働者を雇用する事業主（一般事業主）が行動計画を策定することとされた。

■DV（ドメスティック・バイオレンス）／デートDV

夫婦や恋人などの親密な関係にある人からふるわれる暴力。「ドメスティック（domestic）」は本来「家庭の」という意味であるが、近年ではドメスティック・バイオレンス（DV）は同居の有無を問わず、元夫婦や恋人など近親者間に起こる暴力全般を指す場合もあり、高校生や大学生など婚姻関係にない若年者の間での身体・言葉・態度による暴力が特に「デートDV」と呼ばれ、社会問題になっている。

【は行】

■ポジティブ・アクション（積極的改善措置）

男女が対等な構成員として自らの意思によって社会における活動に参画するとき、男女間の格差を改善するために男女のどちらかに機会を積極的に提供すること。「Affirmative Action」（肯定的措置）と「Positive Discrimination」（肯定的差別）を融合した和製英語。アメリカでは女性に限らず、黒人や少数民族など一般的に社会的不利益を受けている少数派に対してもこのような措置が行われている。

【ら行】

■リプロダクティブ・ヘルス／ライツ（性と生殖に関する健康と権利）

1994年にエジプトのカイロで開催された「国際人口開発会議」で合意された概念で、「性と生殖に関する健康」（人が安全で満ち足りた生活を営み、子どもを産むか産まないか、いつ産むか、何人産むかを自己決定できること）と、その健康を守る権利。「reproductive」は「再生の、繁殖の、生殖の」の意味。

【わ行】

■ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）

国民一人ひとりがやりがいや充実感を持ちながら働き、仕事上の責任を果たすとともに、家庭や地域生活などにおいても、子育て期、中高年期といった人生の各段階に応じて多様な生き方が選択・実現できること。平成19年12月に政府、地方公共団体、経済界、労働界の合意により、「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）憲章」が策定され、現在、様々な取り組みが進められている。

男女共同参画社会づくりに向けての意識調査 アンケート結果

平成 21 年 3 月

発行
調査・編集

茂原市
茂原市企画財政部企画政策課
千葉県茂原市道表 1 番地
電話 0475(20)1516
FAX 0475(20)1603
E-mail kikaku@city.mobara.chiba.jp